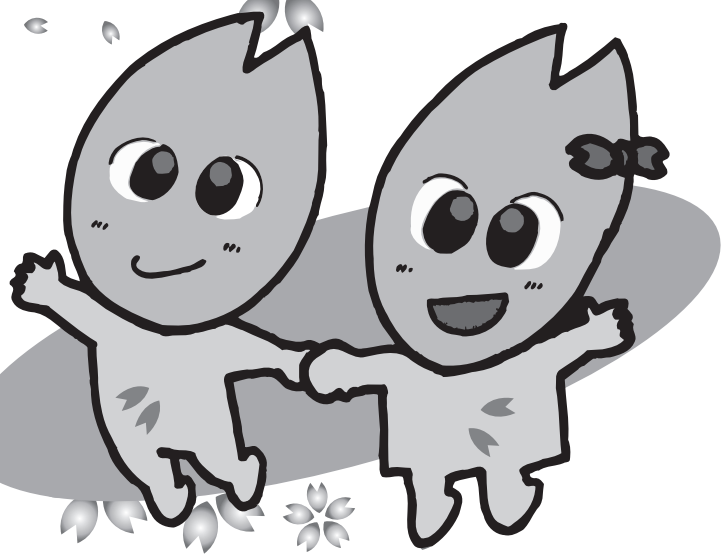
第13回

さくらサミットINひたち

桜と語るさくらの未来～元気さくらとネットワーク～

報告書



期日　平成13年４月７日（土）・８日（日）

会場　日立シビックセンター
かみね公園ほか

主催　茨城県日立市
第13回さくらサミットINひたち実行委員会

目　次

さくらサミットシンボルマーク・さくらサミット憲章…… 3
タイムスケジュール …… 4
参加自治体紹介 …… 6
講師プロフィール …… 7
主催者あいさつ …… 8
来賓あいさつ …… 10
第5回さくらサミット大賞
　　押花絵コンクールINひたち …… 11
私とさくらの思い出発表文 …… 12
基調講演 …… 16
さくらサミット加盟自治体紹介 …… 19
サミット会議 …… 30
共同宣言 …… 48
次期開催地 …… 49
閉会あいさつ …… 50
第13回さくらサミットINひたち関連イベント …… 51

さくらサミットシンボルマーク・さくらサミット憲章

さくらサミットシンボルマーク

さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第 2 回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。

さくらサミット憲章（平成元年 9 月 22 日制定）

Success／成功

第 1 条：
今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach／接近

第 2 条：
共通の目標に向け、ふれあいと連帯を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

Keyword／言葉

第 3 条：
まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity／調和

第 4 条：
文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation／縁

第 5 条：
「桜」によって結ばれた縁を大切にし、互いに友好を深め、21 世紀に向かって前進していきます。

Agreement／合意

第 6 条：
共通の目標に向け、ふれあいと連帯を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

タイムスケジュール

（敬称は略させていただきました）

● 4月7日（土）●

13:00　開会

主催者あいさつ	日立市長	樫村千秋
	第13回さくらサミット IN ひたち実行委員長	古田土勇
来賓代表あいさつ	茨城県知事	橋本　昌
来賓紹介	衆議院議員	大畠章宏
	茨城県議会議員	井手義弘
		菊池敏行
		長谷川修平
		今　一男
	（財）日本さくらの会理事	土屋桃子
	（財）日本花の会結城農場長	田中俊行

13:10　第5回さくらサミット大賞押し花絵コンクール表彰式

日立市長賞・関東郵政局長賞・日立市議会議長賞・日立郵便局長賞
（財）日本手芸普及協会賞・ふしぎな花倶楽部賞

13:15　市制施行60周年記念　なんでもさくら展「私とさくらの思い出」作文発表

（小学生）	滑川小学校5年	荻田千尋さん
	助川小学校6年	直井雄一郎さん
（一般）	久慈町	石津真紀さん
	田尻町	安藤孝吉さん

13:30　基調講演

講師：下河辺　淳／国土審議会元会長
テーマ：「日本文化とさくら」

14:25　サミット会議

参加自治体：18団体
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：篠田伸夫／全国町村議会議長会事務総長
テーマ：桜と語るさくらの未来～元気さくらとネットワーク～

16:20　共同宣言採択

16:25　次期開催地発表

第14回さくらサミット開催地の発表
次期開催自治体の決意表明

16:30　閉会

17:00　交流会

開会	主催者歓迎のあいさつ	日立市議会議長	滑川信光
	乾杯	日立商工会議所会頭	宮崎哲雄
	来賓あいさつ	タウランガ市長	ノエル・ポウプ（姉妹都市）
	来賓紹介	群馬県桐生市長	大澤善隆（姉妹都市）
		福島県原町市長	鈴木寛林
	新規加盟自治体あいさつ	群馬県宮城村長	櫻井敏道

「日本のさくら名所100選+別選50vs日立のさくら」写真展の作品寄贈
津軽三味線演奏　日立第一高校2年　奥村祐介
平成12年津軽三味線全国大会（青森県弘前市）で一般A級部門（16歳以上）最年少入賞。

会場装飾（押し花）藤田三枝
（生け花）丹野敏子

18:45　閉会　日立市助役　高畠　俊

19:00　さくらまつり見学（平和通り夜ざくら見学、花見茶屋）

19:30　日立風流物（国指定重要有形・無形民俗文化財）の見学

20:00　現地解散

● 4月8日（日）

8:45 「産業遺産とさくら巡り」見学会出発（8:40 集合　ホテルサンガーデン前）
9:00 平和通り　日立駅前→国道 6 号
9:05 大雄院通り　国道 6 号→共楽館（車内解説）→大雄院
9:10 日鉱金属㈱日立工場大雄院事務所（車内より見学）
　　大煙突・阿呆煙突などの煙突群、山々の大島桜、山桜の状況
　　㈱日立製作所創業小屋の跡地
9:25 日鉱記念館
　　館内の見学～日立の産業と桜のルーツを探る～
　　鉱山の煙害による被害
　　大煙突の建設と大島桜の植栽
　　山の桜から町中の桜へ
10:35 熊野神社
　　㈱日立製作所山手工場正門より入場、熊野神社の桜見学
11:15 記念植樹　会場：かみね公園東側斜面プラネタリウム跡地広場
11:30 野点　　茶道裏千家　なごやか会　末松倫枝さん
　　和菓子実演　いがわ　　鈴木さん
　　琴の演奏　　森村親由樹さん
12:00 市長あいさつ
12:05 昼食
12:40～13:40　かみね公園発
13:00～14:00　日立駅にて解散

記念植樹団体・樹種一覧

1　サミット加盟自治体

(1)	北海道静内町	蝦夷山桜
(2)	宮城県柴田町	彼岸桜
(3)	秋田県角館町	紅枝垂桜
(4)	福島県富岡町	染井吉野
(5)	埼玉県北本市	石戸蒲桜（後継樹）
(6)	埼玉県幸手市	染井吉野
(7)	東京都北区	江戸彼岸
(8)	新潟県上越市	染井吉野
(9)	新潟県加治川村	寒緋桜
(10)	長野県高遠町	高遠小彼岸桜
(11)	愛知県三好町	染井吉野
(12)	岐阜県根尾村	淡墨桜
(13)	奈良県吉野町	白山桜
(14)	島根県木次町	木次笹部桜
(15)	長崎県大村市	大村桜
(16)	熊本県水上村	関山
(17)	宮崎県北郷町	染井吉野
(18)	茨城県日立市	大島桜

2　日本四大桜

(1)山形県長井市　伊佐沢の久保桜
(2)福島県三春町　三春の滝桜
(3)山梨県武川村　山高の神代桜
(4)岐阜県根尾村　根尾の淡墨桜（前出）

3　姉妹都市

ニュージーランド　タウランガ市　染井吉野

4　地元の小中学校

(1)中小路小学校　染井吉野
(2)宮田小学校　　染井吉野
(3)仲町小学校　　染井吉野
(4)駒王中学校　　染井吉野

5　森林愛護隊

(1)日立南森林愛護隊　大島桜
(2)日立北森林愛護隊　大島桜

参加自治体紹介

1	北海道静内町	10	長野県高遠町
2	宮城県柴田町	11	愛知県三好町
3	秋田県角館町	12	岐阜県根尾村
4	福島県富岡町	13	奈良県吉野町
5	埼玉県北本市	14	島根県木次町
6	埼玉県幸手市	15	長崎県大村市
7	東京都北区	16	熊本県水上村
8	新潟県上越市	17	宮崎県北郷町
9	新潟県加治川村	18	茨城県日立市

講師プロフィール

下河辺　淳（しもこうべ・あつし）

元国土審議会会長。1923 年東京都生まれ。1947 年東京大学第一工学部建築学科卒業。工学博士。1947 年より戦災復興院技術研究所勤務。以後、経済審議庁計画部、建設省計画局を経て、経済企画庁総合開発局調査官、同庁総合開発局参事官、同庁総合研究開発調査室長、同庁総合開発局長、国土庁計画・調整局長を歴任、1977 年より国土事務次官。1979 年から 81 年まで国土庁顧問を務めたあと、総合研究開発機構理事長、特別顧問に就任、1992 年より東京海上研究所理事長。その他に、日中経済知識交流会顧問、日英 2000 年委員会委員、日米欧委員会日本委員会委員、社団法人日本プロサッカーリーグ（J リーグ）裁定委員会委員も務める。

篠田　伸夫（しのだ・のぶお）

全国町村議会議長会事務総長・前自治省消防庁次長。1943 年鳥取県生まれ。1967 年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、87 年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。89 年自治省振興課長、90 年東京都総合計画部長、行政部長、93 年岐阜県副知事を経て、97 年 1 月より消防庁次長を務める。98 年 7 月より(財)救急振興財団副理事長、2000 年 4 月より現職。

主催者あいさつ

日立市長　樫村千秋

「第 13 回さくらサミット IN ひたち」の開会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。本日は、北は北海道静内町、南は宮崎県北郷町まで全国各地より、多くの皆様方にこの日立市にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日の基調講演に下河辺先生、コーディネーターに篠田伸夫先生、ご来賓には橋本茨城県知事をはじめ、大畠衆議院議員、日立市選出の県議会議員の先生の皆様方、また日本さくらの会、日本花の会の方々をお迎えいたしまして開催できますことは、誠に喜びに耐えないところであります。さらに、関係団体の皆様には、本日の会を催すにあたり多大なるご協力を賜りました。心より感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、本年は 2001 年、「21 世紀幕開けの年」であり、また毎年日立市で開催している日立さくらまつりも今年で 40 回を数えます。まさに節目の年です。この記念すべき年に、「第 13 回さくらサミット IN ひたち」が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。

御案内のとおり、日立のさくらのルーツは、約 100 年前に発生した日立鉱山の煙の害により山々の緑が大きな被害を受けたことに始まりました。煙害対策として大量に植えられたのが、煙に強い伊豆大島の大島桜の苗木でした。その後、大島桜の栽培技術を応用して、ソメイヨシノの苗木を生産し、日立鉱山や日立製作所の工場あるいは社宅などにたくさん植えました。

また、太平洋戦争の戦火によりこの日立市は焦土となりましたが、市街地の復興に伴い、市民の多くの皆様が参加して植樹した平和通り、あるいはかみね公園の桜の植樹により、今日のさくらの様相を示しているものです。現在、日立市の市街地だけでも桜の木の数は、1 万 4000 本にも及んでいます。一方で、この桜につきましても、樹勢が衰え、テングス病の防除という大きな問題を抱えています。今回のサミットのテーマは「桜と語るさくらの未来」、サブテーマとして「元気さくらとネットワーク」とさせていただきました。サミットの中では、皆様方とともに、さくらに代わって、さくらの現状と課題を語り、元気なさくらを子々孫々まで残していくことをテーマに意見交換を深めながら、ネットワークの輪を広げていただきたいと思っています。このサミットが実り大きいものとなりますよう、皆様方のご協力をお願いするものです。

最後になりますが、サミット加盟自治体の皆様方、そして本日この会場にお集まりの皆様方の御健勝と御活躍を心から御祈念申し上げましてごあいさつといたします。本日は、誠にありがとうございます。

主催者あいさつ

第 13 回さくらサミット IN ひたち実行委員会委員長　古田土　勇

実行委員会を代表して、ごあいさつ申し上げたいと思います。本日「第 13 回さくらサミット IN ひたち」の開催にあたり、関係のみなさまには、温かなご指導、ご協力をいただきましたことを感謝申し上げたいと思います。

日立市が、このさくらサミットに加盟したのは、北海道の静内町で行われた平成 8 年第 8 回さくらサミットの時です。それより先、私たちは平成 5 年に市民主体によるさくらの愛護団体である「花樹の会」を結成しました。そして、市内にあるさくらの実態調査、それからテングス病の切除等、さくらのまちづくりを進めてきました。その間、さくらサミットの存在を知り、ぜひ加盟してほしいということを市当局に申し上げて、加盟が実現したわけです。

その後、新潟県上越市、東京都北区、宮崎県北郷町、そして昨年の埼玉県幸手市と、私たちは応援団として参加してきました。これらのサミットに参加することによって、全国のさくらのまちづくりに熱意を燃やす仲間たちと交流し、多くの示唆や教訓を得てきました。このような経験から、日立でもぜひさくらサミットを開催してほしいということを、市当局に強く要請してきたところです。幸いに、新世紀のスタートにあたる本年、開催が決まり、たいへん喜びを感じています。

各自治体の代表の方々が集まって行うサミットですから、本来ならば行政サイドで進めるべきものですが、日立市では市長の強い意向がありまして、実行委員会を組織し準備を進めてきました。実行委員会の構成は、行政の担当者、市民団体の代表が半々で構成して、プログラムの検討からテーマの設定、具体的な準備段階まで、お互いに率直な意見を出し合って、行政と市民による共同の作業として進めてきました。

今回のサミットをきっかけに、私たちはさくらのまちづくり市民運動の一層の拡大、発展を図ってまいりたいと考えています。会場にお集まりのみなさま方にも、さくらに対する御理解、御協力をいただくとともに、われわれの先輩方が植栽し、育ててくれた貴重な財産であるさくらを子や孫の時代まで末永く残していかれるよう、そういう環境を私たちの手で作っていきたいと考えています。本日は、御出席誠にありがとうございます。

来賓あいさつ

茨城県知事　橋本　昌

みなさん、こんにちは。第 13 回のさくらサミットが日立市におきまして盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。そしてまた、このサミットを開くにあたりまして、たいへんなご苦労をされました樫村市長、古田土実行委員長に、心から敬意を表したいと思います。また、北は北海道、南は九州まで日本各地から、茨城、日立へおいでのみなさまを、心から歓迎申し上げたいと思います。

私は何でこんな格好をしているかというと、実は今日は 11 時から県の旧庁舎で、「大すきいばらきふれあいまつり」というのを開催していました。昨日の夜も何千人かは多分出られたと思うのですが、夜ライトアップをしたり、たいへん桜がきれいです。いろいろと病気にかかったり、古くなったりということで、手入れのほうも大変ですけれども、桜というものは、日本人にとってはたいへん素晴らしい宝物であります。春になると、桜が咲くのに合わせて、みんなの心が楽しくなってくるわけです。それに合わせてふれあいまつりをやっているわけです。

県内にも愛宕神社とか、土浦市とか、水戸の桜山もそうですけれども、いろいろな地域で桜の名所があります。しかし、私はその中でもやはりダントツに素晴らしいのは、この日立の平和通りの桜並木だろうと思っています。かみね公園ありますけれども、あるいはまた助川城跡にあるとか、川沿いにあるとか、日本全国いろいろな桜の名所というものがあります。しかし、一番の中心になっているあれだけの大通りを、桜のトンネルとして飾ってしまっているというところは、比較的少ないのではないかと思っています。これをぜひとも、もっともっと売り出していくべきではないかと思っています。

今日から、天心記念五浦美術館で村山密展が開かれています。フランスからは、村山さんご夫妻が来られています。あるいは昨日は、ＮＨＫの海老沢会長も来られました。お二人にもぜひともこの平和通りの桜だけは、一番いい時期に来られたのだから見ていってくださいということをお薦め申し上げました。たいへん喜んで帰られたのではないかと思っています。

そして 40 回目のさくらまつりだそうですけれども、これだけの桜、そして 40 回もさくらまつりを続けているわりには、私はちょっと寂しいような気がしています。土、日はともかくとして、平日に来ますと、桜の木と人間とどっちが多いかなと数えなければいけないような日もあるわけです。もうちょっとこの素晴らしい財産を日立市としても生かして人集めをする、町の活性化に使うということが必要ではないかと思っています。そういった点で、武者行列も始めたりとか、いろいろと取り組んでおられるようですので、なお一層そういった面でのご努力というものをお願い申し上げたいと思っています。

そして今日は「さくらサミット」ということで、日本全国から各自治体の首長さん方がおいでですけれども、これからの時代、2007 年からは日本の人口はトータルとして減り始めると言われています。多くの地域でもうすでに減り始めています。そして、厚生省の推計によれば、2050 年には今の 1 億 2700 万というのは、1 億 50 万になってしまう。4 分の 1 が減ってしまう。地域によっては、3 軒に 1 軒、4 軒に 1 軒は空家になってしまうことになります。こういった時代に間もなくなろうとしている。今何をやっておくべきか。少子化対策というものを一生懸命やらなくてはいけない。ある程度のレベルで日本の人口を止めなくてはいけないだろうと思っています。それと合わせて、地域ごとのいろいろな立場を考えた場合には、交流の活発化ということをやっていく必要があるのだろうと思っています。

幸い本県においては、今 3 本の高速道路や、百里飛行場の民間共用化とか、つくばエキスプレスとか、常陸那珂港とか、いろいろな仕掛けが整いつつあります。それぞれの市町村においても、いろいろな将来に向けての仕組みというものを考えながら、まさに今の時期にやっておかないと、後になって動こうと思ってもなかなかすぐに効果の出るものでもありません。

さくらをそれぞれに特色として持たれている市町村のみなさま方がお集まりになられて、どうすればより自分の地域を活性化することができるか、地方分権の時代にふさわしい生き生きとした市町村にできるかということについて、十分な意見の交換をし、また交流していただけたらありがたいと思っています。この第 13 回のさくらサミットが、そういった点からも大いに成功されますことを心からご祈念申し上げまして、お祝いのあいさつに代えさせていただきます。どうもありがとうございます。

第５回さくらサミット大賞押花絵コンクール IN ひたち

■第５回さくらサミット大賞押し花絵コンクール大賞

・日立市長賞	茨城県水戸市	鈴木詩子さん
・関東郵政局長賞	茨城県古河市	佐藤紀子さん

■特別賞

・日立市議会議長賞	茨城県ひたちなか市	川野博子さん
・日立郵便局長賞	茨城県古河市	杉山和代さん
・財団法人日本手芸普及協会賞	茨城県水戸市	杉山京子さん
・ふしぎな花倶楽部賞	新潟県上越市	磨伊聡子さん

私とさくらの思い出発表文

「わたしとさくらの思い出」

滑川小学校 5 年　荻田千尋

春になると、家の庭の花壇をはじめ、学校へ行くまでの道ばたなどのいろいろな場所に、いろいろな花がたくさんさきみだれます。その花たちは、どの花も元気にきれいにさいています。その中でも、太陽に一番近くさいている「さくら」が、わたしは一番きれいで大好きです。平和通りのさくらは、日立駅から国道 6 号まで道ぞいにうえられ、まん開のころの夜は、ライトにてらされて、さらにきれいにわたしたちの目を楽しませてくれます。かみね公園のさくらは、動物たち、のり物たちといっしょになって、ゆかいにさきみだれています。

なめ川小学校のさくらは、わたしが 4 年前の春、入学した時に「おめでとう」と言ってくれるように、さくらの花びらを空からふらせてくれました。そのさくらは、毎年春になると、わたしの心をおだやかにしてくれます。春がすぎて夏になると、さくらは、葉だけしかのこっていないけど、その葉は緑色でとてもあざやかにしげっています。秋になると、わたしたちの大好きな運動会です。おべん当の時間には、さくらの木の下の日かげで、すずしくおいしくおべん当を食べることができます。その様子をにこにこ上から見ているようです。そして、さくらの葉は、緑色から黄緑色や黄色やだいだい色と色をかえて「もうすぐ冬だよ」と、教えてくれているようです。それから、だんだん葉が散っていってしまいます。その冬がくると、わたしたちはあたたかいコートや手ぶくろやマフラーをして体を寒さから守ります。でも、さくらは花も葉も散ってしまい、とても寒そうです。そんなきびしい冬にも負けずに、しっかり大地に根をはって、どうどうと寒さに立ち向かっているさくらを見ると、「がんばって春にはきれいな花をさかせてね」「わたしもつらいこと悲しいことがあっても、きみのようにがんばるよ」とさくらから教えられたような気がします。来年の春が、早く来るといいなあ。

「ぼくと 4 代ざくらはともだち」

助川小学校 6 年　直井雄一郎

ぼくは、6 年前、助川小学校に入学して、いちばんさいしょに目にしたのは、校ていにあるみきの太い大きなさくらでした。行きも帰りもきになっていました。家に帰ってお父さんに聞いてみると、「あの大きなさくらは 3 代ざくらといって、明治・大しょう・昭和と 3 代を生きてきたんだよ。でも『3 代ざくら』はお父さんのときの言い方。今は平成でしょ。だから『4 代ざくら』なんだよ」とおしえてくれました。つぎのひ、学校へ行って、見てみると、きのうよりもも色のさくらの花がさいていました。春はきれいなはなをさかせたり、もも色の花ふぶきをふらせてくれました。夏は青い葉がにらんでいるように見えて、秋はきいろの葉が休んでいるように見えて、冬は、もうつかれてねているように見えました。3 年生のときは、4 代ざくらの下でドッジボールをしました。いまは 128 才です。ぼくがおとなになって、助川小学校にきたときは、何才になっているかとても楽しみです。ぼくと 4 代ざくらはなかのいい友だちです。

「私とさくらの思い出」

日立市久慈町　石津真紀

平成 11 年、春、4 月 2 日、私は 2 週間入院の後、晴れて帝王切開で待望の第 2 子、女の子を出産、1828 グラムの小さな子を生みました。嬉しい反面、体に異常はないか、五体満足に生まれたのか心配でした。出産 5 日後にして初めて娘と対面、そこには、保育器に入り、鼻にはチューブを入れ、手には点滴、胸には心電図が取り付けられ痛々しい姿の娘がいました。動揺している私に主治医の先生は、「小さいけれど、今のところ何の異常もなく成績いいですよ。心配しないで大丈夫」と、勇気付けてくれました。私が今、この子にしてあげられることは母乳をあげる事しかない。と思い、それから、3 時間おきの搾乳を続け、10cc しか飲めない娘へと運びました。

傷の痛みや娘の事、夜中の搾乳、気持ちは暗くなっていました。周りのお母さん達は、喜び一杯、赤ちゃんにおっぱいをあたえさせ、語りかけている様子を横目で見、私も早く、わが娘をこの手で抱き上げ、お乳を飲ませてあげたいと思いながら、ふと、窓の外を見下ろすと、そこには、桜の花が満開に咲いていました。桜の花を綺麗だと感じ、3 週間振りに見る外の景色は新鮮で、窓を開けて外の空気を体中に吸い込んだら、不思議と今まで張り詰めていた気持ちが和らいでいき、1 日も早く娘と家へ帰りたいと願いました。

その頃、主人が娘の名前を決めてきました。名前は「桜」。想像もしていなかったので、少し戸惑いました。でも、時期的にもいいし、名前も可愛い、そして何より、私自身が桜の花に魅せられ、勇気付けられたのを思い出し、この子も、綺麗で女らしく、人の心を和ませられるような素敵な子になってほしいと願い、おもいきって「桜」と命名しました。

その後は、私は一足先に退院。桜のいる病院へと母乳を運ぶ日々が続きました。その甲斐もあり、桜の体重は日に日に増え、2475 グラムとなり、退院の日を迎えることが出来ました。長かった入院生活、落ち込んでいる私を励ましてくれた主治医に看護婦さん達、気持ちや考え方まで変えてくれたあの桜。今、無事に退院となる桜を抱え感謝の気持ち一杯で、お世話になった病院を後にしました。外はもう、桜の花も散り、木々に青々と葉が繁っていました。来年は、少し大きくなった桜と共に家族みんなで、桜の花を見ることでしょう。

桜、桜、ありがとう。

「私とさくらの思い出」

日立市田尻町　安藤孝吉

私の 63 年の人生の中で、節目、節目の思い出を刻み込んださくらの木が、市内にはたくさん残っている。

私が小学生の頃、友達に誘われて多賀町の桜川の堤でさくらの木に登り、唇を紫色にして、甘い小さな実を食べた思いがあるが、そのさくらは今も健在である。

学校を卒業すると、その桜川の北側にある日立製作所国分工場に入社した。4 月上旬の「日立さくらまつり」には、課内で花見会が計画され初めて先輩たちにかみね公園へ連れていかれた。さくら満開の丘陵地から市街地をみおろし、太平洋を一望に収めたとき、その絶景に息を呑んだ。寒さに震えながら飲めない冷酒に悪酔いして、苦しんでいる私の姿を見ていたさくらも、今は一回り大きくなって残っている。

昭和 45 年に、横浜市戸塚区の日立製作所戸塚工場へ 1 年 3 ヵ月出向したときのことである。工場の東側を流れる柏尾川の堤防上にさくら並木がつづいており、花見の名所になっていた。さくらが満開になる 4 月上旬には、花見客で大いににぎわうが、私も課会の花見会に招待され参加した。戸塚工場のなかには、日立工場から転勤された人がたくさんいる。その転勤組のＮさんが、私にほろ酔い気分で、「花見の時期になると、会瀬グランドのさくらを懐かしく思い出して、ふる里をしのんでいますよ……」と、語られた一言が強く印象に残った。それからは、会瀬グランドのさくらを見るたびに、Ｎさんが思い出された。

昭和 62 年に娘は結婚した。新居は、相手が日立製作所に勤めていたために石内社宅となった。日立市の市の花が、さくらとうたわれているように市内にはさくらの名所が多いが、この石内のさくらもすばらしい。娘の部屋から眺めたさくらの花びらが風に舞い散る様子は、まさにさくら吹雪であり、その風情は忘れがたいものがあった。その後、娘夫婦には子供も生まれ家を新築して石内社宅を離れた。

会社を定年退職後は、時間に余裕もできたのでさくらが満開の夜には孫と一緒に、かみね公園から平和通りを散策しさくらを堪能することにしている。特に、ライトアップされたさくら並木、艶やかな花のトンネルは圧巻だ。毎年、きまった場所、同じさくらの木の前で孫の記念撮影をする。古いアルバムをめくるとさくらの木は変わっておらずに孫ばかりがどんどん成長している。

さくらがまちを彩る 4 月には、かみね公園や平和通りが会場で「日立さくらまつり」でにぎわう。私は、その観客の 1 人として、日立に住んでいることが誇らしい気持ちになる。

さくらの木の手入れや保存に力を尽くしている方々に、心からお礼申し上げたい。

基調講演

「日本文化とさくら」

国土審議会元会長　下河辺　淳

みなさん、こんにちは。今日、私がここでお話しすることになりましたのは、私が幼稚園と小学校、そして中学の低学年時代、日立で暮らしたというのが今日のご縁に発展しました。人々はみな、日立というと日立鉱山と日立製作所という企業の町であるということが常識かもしれません。しかし子供であった私にとっては、日立というのはさくらのまちであるという、子供時代の印象がとても強く残っていて、子供のときの桜に囲まれていたことが、今日の高齢者の私の人生の一番基本になっているように思っています。

私が住んでいたのは、日立市の諏訪台というところで、桜塚という塚が立っているところの、社員宿舎として親たちが住んだところで私も育ったわけです。家を一歩出ると、桜の公園の中で、桜塚があって、そこで仲間と遊んだということが、私の一生を決めてきたように思っているわけです。

今日、時間がほとんどなくなってしまいましたので、考えていたことを全部お話することはかえって避けておいて、むしろ後のパネルディスカッションこそ、このサミットの意味があると思いますので、手短に少しだけお話ししてみたいと思います。それは、日本の文化と言われていますが、人とさくらの関係が一つの議論だと思います。

さくらも、人がいなければさくらとして生きていくことはできません。人間のほうもさくらなしでは生きていかれないということから、日本人の里に住むわれわれが、さくらと一緒に協力して生き抜いていくという姿ができたところが、日本の文化の非常に優れた特色の一つだと思うのです。人間のほうは、産業革命以来、科学技術が進歩して環境が必ずしも良好ではないという状態の中で、車は錯綜して飛び交いますし、近代というものは人間を疲れさせていることが今日あります。経済が発展して豊かになったと言いながらも、実は本質的には近代病のもとで苦しんでいると言っても過言ではないかもしれない。そう思いますときに、人々の心を和やかにするものが、日本ではさくらであるということを言ってよいと思うのです。

さくらが同時に咲いて美しさを見せ、そして同時に散って、葉桜が美しいというようなことが確実に毎年行われていって、日本列島は桜前線が南から北へと移っていく。この姿というものは、近代病に疲れたわれわれにとって、欠かすことのできない環境であるということを思うわけです。ところが、さくらのほうでも人間なしでは生きていかれないということをよく知っていて、人間の助けを求めているということがあります。

もちろん、桜は植物ですから根を張って地上に生えていますけれども、移動することや、自分の治療することが自分の力だけではできません。そこで、医者ということを人間に求めていて、自分を正しく管理してほしいと叫んでいます。これは、日本では植木屋さんが大島桜からソメイヨシノの桜へと桜を替えながら、苗木を作って全国にそれを発展させましたから、今やそういったソメイヨシノという形の桜が全国に広がって、おそらく日本にある桜の 7 割は、ソメイヨシノという桜かもしれないと言われているところです。

彼らは、苗木ということで広がっていくことが、人間の植木屋さんをはじめ専門家のみなさんによって進んでいることを、桜の木はとても喜んでいて、日本列島どこへ行っても桜が美しいということが、そのまちの誇りになっているということは、桜の木にとってこんなに嬉しいことはないと言われています。

しかし、山から里に下りた桜は、しかも人間が作った苗木の桜は、どうもちょっと体質が弱いことと同時に、里の都市の環境が非常に悪化しているということから、桜は自分の力で里で美しく咲き誇っていくのは容易なことではなくて、猛烈な努力をしています。そのときに、お医者さんとも

言うべき人間が、その里の桜を守ってくれるということが、桜にとって一番嬉しいことであるわけです。これについては、専門のお医者さんとしての植木屋さんから本当のお医者さんまで協力してくださっていますが、子供から大人から、私のような定年退職した隠居の身分の高齢者まで、ボランタリーな形で、桜と一緒に生きていくということをすることがとても素晴らしいことであります。

しかも 20 世紀が終わって、産業革命による技術発展と経済発展を超えた 21 世紀の豊かさとは何かというときに、決して物的な豊かさを追うだけではなく、心の豊かさが必要であり、しかも文化的な発展というものが、人々を豊かにするという 21 世紀であるとすると、それを先頭に立って導いていくのは、さくらの役割であると思ったりします。すると、人間とさくらとの関係というのは、非常に素晴らしいものだということは、だれでも分かるわけです。

日立市で見ていると、人口が 20 万人を少し割ってきているようですが、日本全体の人口が減少していきます。今 1 億 2500 万人で、日本の人口のピークが来て、これからどんどん人口が減る時代がやってきます。100 年後には、人口が 7000 万人をちょっと割るだろう、あるいは 6000 万人まで減るかもしれないということで、予測が正確にはできませんけれども、人口が激減する時代に入ったことだけは確かです。しかし、減ったと言いながら、江戸時代よりはまだ人口は 100 年後のほうが多いと思います。江戸の人たちがさくらに対して思ったことという、人間とさくらの関係は人口が減れば減るほど強い念願となって現れてくるに違いないと思います。新しい 21 世紀、新しい日本をつくるということは、政治や経済の問題ではなく、ボランタリーな人々とさくらとの関係が保たれていくというところに、一つの姿が見えてくると思います。第 13 回のさくらサミットが開かれて、今後 100 年経って、百何回というさくらサミットが立派に全国のどこかで開かれているということがとても大切だと思います。

そういう日本は、これから益々グローバルな動きをしていきます。日本人も生まれたところへ一生住むという時代ではなく、生まれたふるさとを持ちながら、世界中を飛び歩く。日本中を飛び歩いて、知識を求めて生きていくということになっていくことは見えてきましたが、そのときに、さくらについても同じことが言えるわけです。日本に生まれたソメイヨシノが、アメリカを中心に世界に進出していってくれています。最近では、岐阜の淡墨桜がアメリカでは大好評であるということで、人間だけではなくて、日本のさくらがグローバルな活動をする。場合によると、日本の大使の仕事をするということが言えるのではないか。外交官としてのさくらが世界に動いていくという姿は、日本の文化にとってこれほど嬉しいことはないということをしみじみと思うわけです。

そうやって、さくらというものを見ていくと、なかなかさくらと人とのご縁は断ち切れるどころか、これから益々親しくなっていかざるを得ない。しかも人間のほうは、職業としてということもありますし、専門的、技術的なこともありますが、基本になるのは日本に生まれた人たちのボランタリーなさくらとの交流にあるということは明らかです。今まで日本という国は、ボランタリーな形ということがあまり得意ではなく、行政や政治の指導によってみたり、企業の利益に期待したりということに留まっていました。しかし、これからはさくらとの付き合いは、ボランタリーな形で、ＮＰＯ、ＮＧＯとして展開していくようになることが、さくらにとっても嬉しいことではないか。そういうことを思うようになってきました。

私も高齢者になり、サラリーマンの時代を終わってきて、高齢者として日本を考えるということを始めています。そのときに改めてさくらを思うということが、日本の高齢者にとってとても大切なことであり、定年退職して隠居して、多少なりとも暇ができた高齢者たちが、さくらと同居していくということは素晴らしいことではないかと思ったりします。今、沖縄の復興ということが議論になって、多少お手伝いをしていますが、やはりあのような気候のいいところで、さくらとともに一生を終わりたいというお年寄りも大分増えてきています。そういうさくらのある沖縄の高齢者の住宅を作るようなことが進んできているのはおもしろいと思います。これから沖縄だけではなく、日本全国で高齢者が住む豊かなまちづくりということが大きなテーマとなります。そのときには、必ず主役がさくらであるということを、非常に重要なテーマとして取り上げていく必要があるのではないかと思うわけです。

さくらが咲けば、そのさくらの咲いた庭で酒を飲み、仲のよい友だちと談合するということはとても素晴らし

いことで、企業社会や機構の中で生きているサラリーマンのみなさんが、さくらのもとで親しい仲間と一時を過ごすことがどれだけ意味が大きいかということは、これから益々考えられていくわけです。

これから高齢化社会が来ると一般的に言われて、暗く見る人がとても多いですし、特に老人のほうも老後が不安だという人がいっぱいいたり、年金や医療というものが負担しきれないということを嘆いたりしています。しかし私はそんなことにはならないと思います。高齢者は自分で生きていく努力をするし、高齢化社会が来たからこそ「日本は素晴らしい国である」と言ってもらえる日本をつくらざるを得ない状況になっている。それを激励してくれるのがさくらである。さくらの激励を受けながら、定年退職後の老人たちが、高齢化社会の素晴らしい豊かさを実現していくのが最も大切なことではないだろうかと思うわけです。

今度は、海外に外交官として出かけていったさくらが、里帰りして、出かけていった国から逆にさくらが送り込まれてくるという事態にまでなっている。荒川というすさんだ東京の中に、アメリカから帰ってきたさくらが、荒川の堤を飾っていくということで、東京の豊かさが見えてくるということも素晴らしいことであると思います。

ソメイヨシノというのは、ご専門のみなさん方はとっくにご存じのことだと思いますけれども、奈良ということで議論されているのではなくて、染井村という村は、東京の今でいうと豊島区の駒込のところにあったということが記録されています。そこの植木屋さんたちが大島桜から改良したソメイヨシノという染井村の桜を全国に普及したということで、今日の日本列島の桜が出ています。しかし日本のさくらは、1500 年、1200 年というような 6 世紀、7 世紀、奈良時代、天平年間の中で、さくらがすでに大評価されていて、それをそのまま伝えていこうということにもなりました。そして秀吉がさくらを好み、千利休が茶室でさくらを見るということにまで展開してきました。そういう歴史が今日に伝わっていますが、今アメリカでは岐阜県の淡墨桜というものが、とても高い評価を受けていて、今日もいらしていると思いますけれども、岐阜県は外交官としてグローバルな働きをする淡墨桜というものを、人間が一生懸命介護しながら送り続けていくという姿は、21 世紀の日本のグローバリゼーションにとって、こんな素晴らしいことはありません。

そして、第 14 回は岐阜で行われると聞きまして、私はとても嬉しく思いました。そういうことが日本の文化であり、日本の歴史であり、そして日本の未来であるということを今日 13 回の会の中で、みなさんで認識を共有していただくことが、このサミットの意味をとても高らしめるものだと思っています。

実は、いろいろなことをお話ししてみようと思っていたのですが、後で行われるパネルディスカッションのほうがよほど充実した内容を持っていて、私は単に日立で育って、さくらで育って、こうやって高齢化社会を迎えているということからお話しをすることになりましたので、この辺で私のお話を終わりにさせていただきます。ご清聴賜りまして、本当にありがとうございました。

さくらサミット加盟自治体紹介

北海道静内町

市区町村の概要

雄大な日高山脈と太平洋に囲まれた競走馬のふるさと日高地方の中核都市。農林漁業の他、各種の産業が発達した人口 23,200 人、10,000 世帯の緑豊かな町。

さくらの概要

直線 7km “ 日本一の桜並木 ” として知られる二十間道路桜並木。道路幅が二十間(36m)あることから二十間道路と呼ばれ親しまれるようになったこの道の誕生は明治 36 年のこと。当地を訪れる皇族等を迎えるために、幅二十間・長さ 2 里(8km)という雄大な行啓道路が造成され、桜の植栽は大正５年から７年にかけて 3 年の歳月を費やして当時の御料牧場職員が近隣の山々から移植し行われた。風雪に耐え、幾多の存亡の危機を乗り越え咲き続ける桜は、ほとんどがエゾヤマザクラである。

この桜並木は、樹齢 80 から 90 年と推定される老木樹であり、腐食や病気等により樹勢の衰えが随所に見受けられ早急な対策を検討していたが、平成 11 年度より、二十間道路桜並木の約半分を占める農林水産省用地において、本格的な樹木の調査治療が開始された。これは 3 ヶ年で総事業費約 2,500 万円を費やし、樹木の調査治療などを徹底的に実施しようとするもので、同時に懸案事項であった桜杜等専門員による桜の調査･研究･維持管理へ向けての大きな前進となるものである。

また、町民有志の熱意により、観光を主としたまちづくりに民間サイドから支援する団体が組織され、平成 11 年 12 月には、静内町の貴重な財産である「二十間道路桜並木」を含めたエゾヤマザクラをはじめとする観光資源の保護、育成を主とした観光振興事業に要する経費の財源とするための、「観光振興のための基金に関する条例（静内町さくら基金)」が制定された。

宮城県柴田町

市区町村の概要

東北唯一の政令指定都市仙台市から南へ 25km、町中央部を白石川が流れる人口 38,000 人、世帯数 12,000 の県内最大規模の町。温暖な気候で稲作をはじめ花や果樹栽培等が盛んな一方、東北の町村で第 4 位の製造品出荷額を誇る工業の町でもある。

さくらの概要

毎年 4 月 10 日から 25 日までの期間で、さくらまつりが開催されている船岡城址公園は町南西部に位置する独立型山状の四保山にあり、樹齢 96 年のソメイヨシノなど、1,000 本余りが咲き乱れる。歴史をたどってみれば戦国時代に船岡城が築城され、後に原田家が治めているのは、山本周五郎作「樅の木は残った」でご承知のとおりである。

また白石川堤の桜は、「一目千本桜」の愛称で親しまれ、柴田町から大河原町に至る総延長 8km に約 1,000 本のソメイヨシノが植えられ、開花時には並行して走っている JR 東北本線の列車も徐行運転を行っている。この桜は、大正 12 年 4 月白石川堤防改修工事完成記念として植樹され、残雪をいただく霊峰蔵王を背景にした景観は県内屈指の桜の名所として観桜客の目を楽しませている。

樹齢が 79 年を超す老木が多いため、樹木樹勢の診断を行いながら、施肥や剪定等による樹勢保持に努めるとともに、「桜づつみ事業」の実施による堤防上の桜の植樹や多品種の桜が観察できる遊歩道を整備しながら次世代への継承を行っている。

平成 12 年度からは、白石川や船岡城址公園はもちろんのこと、町全域に点在している桜の木 1 本 1 本が、すべからく“ 町の宝物 ” と位置付け、柴田町がこれからも「柴田らしい桜の町」であり続けるための「柴田さくら百年計画」を策定している。

秋田県角館町

市区町村の概要

秋田県のほぼ中央部東端に位置し、面積 156km^2、人口約 15,000 人、4,900 世帯、清流玉川と桧木内川の合流域に沿って南に開けた盆地の城下町。藩政時代から仙北郡北部の政治、経済、文化の中心として役割を担ってきた。元和 6 年の町並みが現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。稲作が主要産業だが、伝統産業樺細工でも知られている。

さくらの概要

毎年春、武家屋敷とシダレザクラ、清流とソメイヨシノの並木と 2 箇所の国指定のサクラが独特の景観を見せている。みちのくの小京都と呼ばれ、武家屋敷が現存し各屋敷内に約 400 本のシダレザクラが植栽されている。このシダレザクラ群は藩政時代京都から苗木が運ばれ、その後家臣が各邸宅に種を植え殖やされたものと言われている。昭和 49 年に 153 本が国の天然記念物に指定された。

一方、まちの中央部を流れる桧木内川堤に 2km の桜並木がある。昭和 7 年救農土木事業で桧木内川左岸堤防の築堤及び護岸工事を行った。翌 8 年に完成、この年天皇陛下の誕生の慶事があり、翌 9 年の春に記念植樹を行った。その後、幾多の混乱を乗り越えサクラは見事に生長し並木を形成した。昭和 50 年国の名勝に指定された。シダレザクラは推定樹齢が 100 年～300 年でまだ寿命とは言い難いが、武家屋敷住民の生活環境の改善、観光客の増加などで生育環境が大きく変化してきている。

このため、平成 11 年度から緊急調査事業を実施、指定全数について詳細調査を行い調査データと共に保全上の問題点と課題を抽出し調査報告書を作成する予定。ソメイヨシノの並木は平成 10 年度～11 年度にかけ保存管理計画を策定、平成 12 年度からは継続事業で保存管理計画に基づき樹勢回復のための土壌改良、根系誘導工などの保存改良事業を実施中。この事業は一般的に 60 年と言われているソメイヨシノの寿命を植え替えなしで克服出来るか、ソメイヨシノの老木を有する全国から注目されている。

福島県富岡町

市区町村の概要

福島県浜通り地方の中央に位置し北は大熊町、西は川内村、南は楢葉町とそれぞれ境を接し、阿武隈山地と太平洋との間に広がる東西 12.7km、南北 9km とやや短形の面積 68.47km^2、人口約 16,000 人の町。

さくらの概要

昭和 40 年代初頭からの電源開発により、地域社会経済が目覚しく発展してきたが、大規模プロジェクトが峠を越えた現在、「ポスト原発」を合言葉に電源立地町として特色ある町づくりを目指し、地域振興を推進している。

本町の桜はほとんどが「ソメイヨシノ」であり、町内に約 2,000 本植えられている。その歴史は、明治 33 年に農村開発のモデルとして当地に入植した半谷清寿氏が農場や宅地の周りを半谷農場として開拓し、約 300 本のヨシノザクラをはじめ種々の樹木を植えたのがはじまりである。次男の六郎（のちに町長）は、父の意志を継いでこの地をサクラの名所にしようと、明治 44 年に約 1.5km の道の両側に約 300 本のサクラを植えその後もサクラを増やし続けた。一時期公園敷地の一部が「日本サクラの会」の所有となったが、昭和 55 年それを町が買受け、夜の森公園として都市計画決定を受け都市公園として位置づけた。更に昭和 56 年「緑の文化財」、昭和 60 年「ふくしま緑の百景」の指定を受け、現在に至っている。

埼玉県北本市

市区町村の概要

埼玉県のほぼ中央に位置し、東京から 40～45km 圏にあり、面積 19.84km^2 の首都圏の住宅都市として発展してきた。

市内に平地林が多く点在していることから将来都市像を「緑にかこまれた健康な文化都市」と掲げ、桜や四季の花々が咲き誇る豊かな自然と都市が共生したまちづくりに向け、現在様々な施策を展開している。

桜は、昭和 52 年度に市の木として指定された。平成 9 年度に市のイメージを高めるため、市民と行政が一体となって魅力あるまちづくりを推進するための指針として、「北本市イメージアップ推進計画」を策定し、「感動桜国きたもと」をキャッチフレーズとし、「感動桜国」を「観せる」、「伝える」、「創る」という 3 つの展開方針に沿って、事業を推進している。

さくらの概要

北本市の桜には、日本五大桜（福島県三春の滝桜、山梨県山高の神代桜、静岡県狩宿のゲバ桜、岐阜県根尾谷の淡墨桜）の一つで、大正 11 年に国の天然記念物に指定された樹齢約 800 年の「石戸蒲ザクラ」、市の天然記念物として指定され、樹齢約 200 年の「高尾エドヒガンザクラ」、ソメイヨシノの「石戸城ヶ谷堤」など桜の名所が数多くあり市民に親しまれている。平成 7 年には石戸蒲ザクラの後継樹や北本市に転入された方々の故郷から送られた 11 種 182 本の様々な種類の桜を植栽した「高尾さくら公園」を開設し、毎年市内外から多くの人々が訪れている。

また、市内の雑木林には、大宮台地における全ての自生種、ヤマザクラ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラが今なお健在に自生しており、街路樹として八重桜や企業内の緑地にソメイヨシノなど多くの桜が植栽されている。

埼玉県幸手市

市区町村の概要

関東平野のほぼ中央、埼玉県の北東部に位置し、北は茨城県、西は千葉県に接している。平成 8 年度に市制施行 10 周年を迎えた人口約 57,000 人、19,000 世帯のまち。

さくらの概要

市内北部の権現堂堤が桜の名所として知られている。堤は約 400 年前に築かれ、江戸期を通して江戸を水害より守った。大正 9 年に約 4 里にわたり桜が植栽されたが、戦中から戦後にかけて伐採されてしまう。その後、昭和 24 年に地元住民等により桜の植栽が進められ、現在約 1km にわたり約 1000 本の桜が続き、例年大勢の花見客で賑わっている。

権現堂堤の桜は、トンネル状に満開になった桜と、周辺に植えられた菜の花とのコントラストが見どころである。

東京都北区

市区町村の概要

東京の北の玄関口に位置し、平成 10 年「第 10 回さくらサミット in 北区」が開催され、全国に桜文化が発信された人口約 32 万人のまち。桜の名所地「飛鳥山公園」に同年全国初の公・民営の 3 つの博物館が同時に開館したほか、東京初の防災センターや、旧古河庭園、桜の名所の岩淵水門などを有する。

さくらの概要

東京の桜の名所の一つである飛鳥山公園の桜は、徳川八代将軍吉宗の時代に植栽され絶好の行楽地として桜の名所地となり、現在も多くの花見客が訪れる。戦後数度の大規模改修が行われたが、現在では飛鳥舞台や井桁噴水など桜と水と自然石の調和による趣豊かな歴史公園として評価されている。現在、荒川赤羽緑地の堤防に桜を植栽し、桜のプロムナードとして整備するほか、平成 10 年知水資料館も開設され、桜をシンボルにしたまちづくりが展開されている。

新潟県上越市

市区町村の概要

上越市は、奈良時代以来、越後国の政治・経済・文化の中心として栄え、いたるところに歴史遺産が残されている。とりわけ春日山城跡・福島城跡・高田城跡が知られている。

現在、人口 134,851 人、45,692 世帯であり、港湾整備、火力発電所の建設、上信越自動車道、北陸新幹線など数多くの大型プロジェクトが進行し、対岸諸国と三大都市圏のゲートウェイとして発展している。

さくらの概要

ソメイヨシノを中心に約 4,000 本の桜が植えられている高田公園では、毎年見頃となる時期にあわせて観桜会が開催される。ぼんぼりの明かりに照らし出され、お堀の水面に映る様は大変美しく、日本でも有数のものとして知られている。

歴史を溯るとこの桜は、陸軍第 13 師団の入城を祝い、在郷軍人団の呼び掛けにより集まった寄付をもとに、明治 42 年 3 月に 2,200 本の桜を植樹したのが始まりである。

昭和 50 年には、園内に桜見本園として変化に富んだ品種を植樹し、現在 10 数種の桜が訪れた人々の目を楽しませている。昭和 55 年、市の木として「桜」を制定した。

平成 8 年度から、公園一帯を一万本の桜で埋め尽くし、上越市を桜の都とする「一万本の桜が咲き誇るまちづくり」計画に取り組み、平成 12 年度、10,000 本を達成した。

新潟県加治川村

市区町村の概要

北緯 38 度線が通る村「加治川村」は、日本有数の穀倉地帯である蒲原平野の北部に位置する人口 7,566 人、1,846 世帯の純農村である。豊かな自然に恵まれ、良質なコシヒカリを産出する「桜とコシヒカリの里」。

さくらの概要

○国天然記念物「橡平（とちだいら） 桜樹林」

日本一小さい山脈である櫛形山脈の中央にある大峰山（399.5m）付近の山腹に桜の原始樹林帯があり、約 40 種、1,000 本以上の桜があるといわれている。

この桜は人工的に移植したものではなく、何万年も前に自生したものが長い年月の自然交配により多数の変種の山桜になったものである。昭和 9 年には約 117ha の桜樹林が国の天然記念物に指定されている。開花期は 4 月下旬から 5 月上旬。

大正天皇の即位等を記念して、大正 3 年に加治川堤 28km に桜 6,000 本を植栽した「長堤十里の桜並木」は日本一ともいわれ、花見客用の臨時停車駅もできるほどだったが、昭和 41 年、42 年の連続大水害による河川改修のためにすべて失われてしまった。しかし、現在では建設省の「桜堤モデル事業」に認定され、周辺４市町村で「桜の里親制度」等により復元されている。

平成 9 年に、大峰山のふもと 5.2ha に桜公園を開園。世界の桜 109 種類を植栽し、四季を通じて観桜できる公園をめざしている。

長野県高遠町

市区町村の概要

長野県南部の人口 7,400 人、2,400 世帯の山裾の城下町。特産品は歴史のある高遠饅頭、高遠焼、木材の彫刻製品が主なものである。

さくらの概要

高遠は鎌倉時代の高遠氏に始まり江戸時代の内藤氏まで城が形成され、南信濃の中心地として栄えてきた。戦国時代には武田信玄が本格的な城塞を築き、江戸時代は会津藩始祖の保科氏を始めとした高遠藩 3 万 3 千石が置かれ、城下町が発達した。廃藩置県により高遠城は取り壊され、あたりは一時荒廃したが、明治 8 年有志が近くにあった桜の植樹をして高遠城址公園としての整備が始まり現在に至っている。この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの仲間としては大木となり花も赤みが強い特種な桜で、樹林は県の天然記念物に指定されている。

岐阜県根尾村

市区町村の概要

国指定天然記念物の淡墨桜をむらづくりのキーワードとして、桜の植樹運動を進めている。清流・根尾川が中央を流れ、四方を美しい緑の山々に囲まれた人口約 2,400 人、810 世帯の自然豊かな山村。

さくらの概要

樹齢 1,500 余年の淡墨桜は、第 26 代継体天皇のお手植えの桜と伝えられ、樹高約 16m、幹回り 10m、枝張りは東西 27m、南北 20m と桜では日本一の巨樹と言われ、日本さくら名所 100 選にも選ばれた。国指定の天然記念物、蕾のときは薄いピンク、満開に至っては白色、散りぎわには特異の淡い墨色をおびてくる。過去、幾度も雪害や風害により枯死の危機に陥ったが､山桜の根継ぎによる回生手術や作家宇野千代女史ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、昭和 55 年度から 10 年間で淡墨公園として整備され、毎年 4 月上旬には全国から 20 万人もの観光客が訪れる。淡墨桜を愛する人は、国際化の流れの中で、国内にとどまらず世界にも広がっている。平成 11 年 11 月アメリカ合衆国ポトマック公園に淡墨桜の苗木が植樹された。

愛知県三好町

市区町村の概要

愛知県のほぼ中央、名古屋市と豊田市の間に位置する都市近郊の自然に恵まれた町。

三好町は、柿・梨・ぶどう等を特産物とする農業と自動車関連企業等の工業、魅力ある商業施設の立地など、各産業がバランス良く調和して発展してきた。

さくらの概要

毎年 3 月下旬から 4 月下旬に三好桜まつりが開催される三好公園では、三好池を囲むように植えられた 2000 本の桜が一斉に咲き、散歩や花見客の目を楽しませている。

また、同公園で桜の開花時期に併せて、桜マラソンや国際レディースカヌー大会を開催するなど、三好町の春は桜とともに始まるといって過言でない。

また、保田ヶ池公園でも、お花見広場や 1 周約 1 キロの散策コースでゆっくり花見ができる。どちらの公園も桜の季節は夜間ライトアップされ、夜桜が満喫できる。

三好町では、国の花であるさくらを愛する心を広く町民に呼びかけ、さくらを通して豊かな自然と環境を守り、健全な生活環境の保全と推進を図るために、「三好町さくらの会」を設立し、新たなさくらの名所 “ 三好町さくらの園 ” づくりを進めている。

さくらの園は、地域の人々の手により整備が進められている。ここでは、「さくらの核」･「さくらの軸」･「点在するさくら」など、新旧の様々な桜のあるふるさとの風景づくりを計画している。

奈良県吉野町

市区町村の概要

奈良県のほぼ中央に位置し、人口 12,030 人、3,800 世帯、市街地に接して約 30km^2 にも及ぶ国立公園がある。また、町のいたる所に名所、旧跡、文化財が散在し、緑豊かな自然観光地として広く知られている。

さくらの概要

吉野山は古来から桜の名勝地として知られているが、今から 1300 年前、山岳宗教『修験道』の本尊、蔵王権現の御神木となり、役行者の神秘的な伝承と修験道が盛行するにつれ蔵王権現を祀る金峯山寺への参詣も盛んになり、御神木の『献木』となって植え続けられてきた。

全山で約 3 万本の桜が植栽されており、そのほとんどが桜の原点であるシロヤマザクラである。4 月上旬には麓の下千本から開花し、中・上・奥千本とおよそ 1 ヶ月かけて山を咲き昇っていく景色は見ごたえがある。

しかし、元々桜が育つには適地といえないのが吉野山である。平成 4 年頃から花の量や艶も少なく、目に見えて衰退してきた。その原因として、寿命や病害虫の発生、環境の変化が考えられた。その後、県を中心に『桜活性化検討委員会』が設けられ、提言に基づき様々な作業が実行され、また継続してきたことにより、樹勢回復の効果が少しずつ見えてきている。今後もその効果を維持していくために、関係機関と連携を密にし、絶えず桜樹林の管理を行っていく必要がある。

鳥取県西伯町

市区町村の概要

中国地方、山陰にある西伯町は鳥取県西部の島根県境に位置し、米と和牛、薪炭生産の町として知られている。農業構造改善事業や住宅団地造成、企業誘致等々により兼業化が進んでいるが、一方でダム湖を拠点とした観光開発にも着手している。人口 8,247 人、2,460 世帯の町。

さくらの概要

江戸時代、出雲街道の宿場町として発達した西伯町では、法勝寺城山公園（法勝寺城跡）で例年 4 月上旬～中旬を花まつり期間とし、この期間は町内外の住民の憩いの場になっている。期間中は公園一帯が桜の花に包まれるため、ぼんぼりが設置され、川面に映る夜桜見学も行われている。また、4 月中旬には、全国でも数少ない郷土伝統文化財「一式飾り」や、「上長田神社春季大祭」が行われ、中央公民館主催の地区住民の公民館まつりと共に桜のこの時期は一年で最もにぎわうときを迎える。

法勝寺城山公園及び法勝寺川堤防	1,000 本
妙見山公園	300 本
緑水湖周辺	1,000 本

島根県木次町

市区町村の概要

島根県出雲部の中央に位置し、古くから当地方の中心として栄え、現在は木次拠点工業団地を中心に企業誘致が進んでいる。また「健康の町」を宣言し「心、体、社会」の健康づくりを進めている。人口 10,230 人、3,025 世帯の町。

さくらの概要

平成 2 年 3 月、「日本さくらの会」より、日本さくら名所 100 選に認定された「斐伊川堤防桜並木」は、斐伊川の清流に沿って約 2km にわたり、花の見頃には桜のトンネルとなり、中国地方随一の桜の名所としてその名を馳せている。

この斐伊川堤防の桜は、明治の終わり頃から町民の手によって植えはじめられ、本格的には昭和のはじめに堤防の両側に植えられた。当時の小学生が中心となり、自分が育てる桜を決めて管理が行われ、以来町のシンボルとなっている。

現在、斐伊川堤防など町の中心部には約 1,500 本の桜があり、昨年町内 5 万本の桜の植栽を達成した。きすき桜まつりの期間中（3 月 24 日～4 月 22 日）には、ぼんぼりやライトアップの点灯により夜桜を楽しむことができ、4 月 7 日（土）・8 日（日）をメインとして数千発の打ち上げ花火等各種イベントを用意してある。

また、堤防の小段は芝生で整備され、清流のせせらぎを聞きながらのお花見ができ、駐車場も河川敷が利用できる。

島根県美都町

市区町村の概要

県西部に位置し、中国山脈の嶺線に近い傾斜の中間地帯にある、四面を山々に囲まれた人口 2,690 人の町。また、高齢化率は 34%で過疎・高齢化が全国的にみても顕著な地域となっている。町の産業は、山陰 1 位の生産を誇る柚子やメロン・イチゴ・ホウレン草などの施設園芸が盛んで広島・関西方面にも出荷されている。また、平成 3 年にオープンした美都温泉には年間 15 万人の入浴者で賑わっている。

さくらの概要

美都町は「桜と柚子と温泉のまちづくり」をキャッチフレーズに地域振興に取り組んでいる。町内には、県指定文化財・天然記念物に指定されている「金谷城山桜」がシンボルとしてあり、現在「美都町桜の会」（町内外会員総数 160 名）を中心として、桜の苗木の植栽と桜愛護の活動に取り組んでいる。

特に、「美都町を桜の町として有名にしよう」と昭和 63 年から始めた「1 万本桜植栽運動」は、平成 7 年には 1 万本を超え、その後も毎年植栽しており、桜の咲く季節になれば、町内各地で一斉に開花し、町民を始め、この町に訪れる人々の心を和ませている。

高知県佐川町

市区町村の概要

高知県のほぼ中央部、高知市の西方 27km に位置する人口約 15,000 人、5,500 世帯の町。高吾北地域の交通、通信、文化、経済の中核として位置づけられている。

さくらの概要

牧野公園の桜は、明治 35 年、牧野富太郎博士が東京染井で発見した桜の種ソメイヨシノを送ってこられ、それを地元の有志が植えたことに始まる。大正 4 年、町が 1,300 本のソメイヨシノの苗木を購入し、町内の道路沿いや各地区に植えたことで、名所「桜の佐川」として有名になり、その中心が奥の土居（牧野公園）であった。戦時中は、食料増産ということで畑に開墾されたが、昭和 24 年、町、商工会等により桜やつつじなどが植えられ再び花見処となった。牧野公園は、平成 7･8 年度で、売店棟、便所、駐車場、植栽等の工事を行い、四季を通じて利用できる憩いの場として整備をした。約 2,000 本の桜は、古い街並みとあいまって、情緒あふれる花見ができ、県下一の花見処である。

長崎県大村市

市区町村の概要

長崎県の中央部に位置し、東西 14km、南北 16km、総面積 126.33 ㎢ を有する人口 86,215 人、32,707 世帯の市。

大村藩千年余の歴史の中で城下町として栄え、日本初のキリシタン大名となり、天正遣欧少年使節の派遣などの業績を残した大村純忠や、明治維新の偉業達成に重要な役割を演じた藩士を数多く輩出するなど「歴史のまち」である。

今日では、世界初の海上空港である長崎空港を有し、オフィスパーク大村、大村ハイテクパークの整備により、全国で最も起業しやすいまちとして注目を集めている。

さくらの概要

長崎県随一の桜の名所として有名な大村公園は、大村藩主の居城であった玖島城跡で、約 21ha の広さを誇り、桜のほかツツジ、花菖蒲、アジサイと花の期間が長く続き、3 月 25 日から 6 月 20 日まで花まつりで賑わいを見せる。

桜の数は、ソメイヨシノ 1,500 本、オオムラザクラ 300 本、八重桜 200 本とあわせて 2,000 本。

中でも、国指定の天然記念物であるオオムラザクラは、八重桜の二段咲きで花弁の総数が 60～200 枚もある優雅な花で、里桜中の名花と言われている。

熊本県水上村

市区町村の概要

熊本県東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積 192.11km^{2}のうち、92%が森林に囲まれた人口約 2,700 人、900 世帯の村。日本三大急流のひとつ、「球磨川」の源がある自然豊かな村。

さくらの概要

昭和 35 年、村の中央部に洪水調節を主目的とした多目的ダム「市房ダム」が完成し、修景事業の一環として昭和 37 年に付け替え道路となったダム湖周辺 14km に一万本の桜が植栽された。その後、昭和 59 年に始まった「くまもと日本一づくり運動」のなかで、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、市房ダム湖周辺で育まれた一万本の桜を核にした「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在、住民総参加の桜の下草刈、空き缶・ゴミ拾い等、住民一人一人の手で育てられている。また、平成 9 年度より樹木医の指導を仰ぎ、土壌改良、間伐等、年間約一千万円の経費を費やし、桜活性化対策事業に取り組んでおり、開始後二年目の後半より、新芽の徒長、花の付きなど目に見えて効果が現れており、今後も継続して行なう予定でいる。

なお、桜図鑑園には、約 80 種類の桜の木が植栽されており、観光面での整備がなされている。

宮崎県北郷町

市区町村の概要

さくらのまち日本一を目指し、昭和 56 年から桜の植栽運動を展開している。温暖な気候と人情豊かな、人口約 5,300 人、1,900 世帯の緑と清流と温泉の町。

さくらの概要

370 年の歴史を誇る飫肥杉のまちで、この豊かな杉林の緑の中に、色鮮やかに春の訪れを知らせてくれる山桜が数多く生息しているところである。植栽は、自治公民館や各種民主団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や沿道など約 18,000 本程度の植栽を完了している。また、当町は宮崎日南海岸リゾート開発の保護・歴史リゾートゾーンに位置づけられ、静かな高原にリゾートホテル、ゴルフ場が整備されているほか、周辺には緑豊かな自然を生かしたレクリエーション施設や公園を数多く有している。特に高原にはリゾート施設の整備とともに、桜のまちづくりの拠点として 10,000 本の桜が植栽され、平成 11 年度から遊歩道やトイレ、広場の整備のほか、四季を通じた草花の植栽を行い、さくらまつりを開催するなど楽しまれる「さくら公園」としての整備が進められている。

茨城県日立市

市区町村の概要

水戸藩第 2 代藩主徳川光圀公が、「朝日の立ち昇る光景は領内一」と讃えた故事から「日立」になったといわれる。太平洋と阿武隈山地に囲まれた自然豊かなまちである。

近代産業の起こりは、小坂銅山（秋田県）を再興した久原房之助（くばらふさのすけ）が、細々と操業していた赤沢銅山を明治 38 年に買収、日立鉱山と改称して電力による近代採鉱技術を採用し本格的な銅鉱山の採掘・精錬を始めたことによる。大正初期には、精錬に伴い発生する亜硫酸ガスが周辺の村々に多大な被害をもたらしたが、高さ世界一（当時）の大煙突を建設してこれを克服した。その後、鉱山は鉱石枯渇により、昭和 56 年に幕を閉じた。

一方、鉱山の工作係としてモーター修理を始めた小平浪平（おだいらなみへい）は、自主技術によって国産モーターを開発、明治 43 年に日立製作所を創立して、大正 9 年鉱山から独立した。戦時中には軍需工場に指定され、昭和 20 年の空襲では壊滅的な被害を受けたが、戦後の高度成長期に事業を拡大し、世界的な企業へと成長を遂げている。

わが国を代表する企業城下町であるが、特色としては市民運動が盛んなまちである。福祉事業や生涯学習、地域のコミュニティからさくらのまちづくりまで、多くの団体が幅広い活動を展開している。

現在、「創造とふれあいの都市（まち）・日立」を目指し、県北部の中核都市として機能強化を図るため、各種事業の展開を進めている。人口 193,282 人、世帯数 73,093。

さくらの概要

大正の初め、銅の精錬に伴って発生した煙害で荒廃した山々に、日立鉱山がオオシマザクラなどの煙害に強い苗木を大量生産して植林したのが始まりとされる。一説には、約 260 万本の桜苗を植えたとされる。鉱山は桜苗の栽培技術を応用し、ソメイヨシノを社宅や工場などの周りに植栽してきた。昭和初期には、鉱山による桜の植栽と咲き誇る花々の素晴らしさを讃え、日立製作所の役員が「桜塚」を建立して贈る、という美談も現在に語り継がれている。

一方、市は昭和 20 年の戦災により焦土と化した市街地の復興を図るとともに、市民の安らぎの場として、昭和 20 年代後半「平和通り」や「かみね公園」にソメイヨシノなどの桜を数多く植栽した。この桜は平成 2 年「日本のさくら名所 100 選」に選ばれた。

毎年、桜の季節には市の内外から 50 万人近い観光客を集めて「日立さくらまつり」が開催され、会場の一つである平和通りでは、国指定重要有形・無形民俗文化財の「日立風流物」公開などの多様なイベントにより賑わいを見せている。開花時期の夜間は桜のライトアップによって、幽玄な世界をかもし出している。

サミット会議

「桜と語るさくらの未来　～元気さくらとネットワーク」

【コーディネーター・篠田伸夫】　みなさん、たいへんお待たせいたしました。

私は、北区で行われました第 10 回以来、このサミットのコーディネーターを務めさせていただいております。今回は、昨年の幸手市に続きまして、関東で開催ということになりました。数えて 13 回目になります。ここで振り返りまして、一応サミットの経緯、あるいは趣旨といったものを会場のみなさん方にご案内するために、簡単に述べさせてもらいたいと思います。

第 1 回のサミットは、昭和 63 年 4 月、島根県の木次町で開催されました。ちょうどその 1 年前、昭和 62 年 6 月に、みなさんもご記憶があるかと思いますけれども、第 4 次全国総合開発計画（4 全総）が策定されました。そのときは、東京一極集中の是正ということが、たいへん大きな問題になっていました。それと同時に、多極分散型国土の形成ということが大きな目標になっていました。そしてその 4 全総では「地域間交流」ということが極めて重要なキーワードになっていました。

当時、木次町の町長さんは、この「地域間交流」という時代に合わせて、地域振興の核にさくらを標榜している自治体が集って、いろいろと情報を交換し自治体の活性化を図ろうではないかということで、サミットを計画されたというふうに聞いています。爾来、回数を重ねて今回で 13 回目というわけで、たいへん熱心にさくらに関連して議論をしていただいているわけです。

さて、今回は日立市さんで開催することになったわけです。今までも市長さんがご参加されまして日立市の話をされていましたけれども、日立市は市民の手によるさくらのまちづくりをたいへん積極的に行われているということで、たいへん感銘を受けていたわけです。実は、このさくらサミットというのを、前々からぜひとも招致したいということで、たいへん熱心な働きかけがあったようです。関係者の一員としては、たいへんありがたく思っているわけです。どのくらい熱心であったかということですけれども、前回の幸手市で行われたサミットの際に、隣にいらっしゃいます市長さんから、この『日立のさくら』という本を頂戴いたしました。今回こちらのほうに伺う前に、再度読ませていただいたわけですけれども、その中になんと、いずれさくらサミットを誘致しようという目標を掲げて、「ひたちサクラ 20 万本の会」というものが平成 8 年に創立されたというくだりがあります。そこまでして、さくらサミットを招致したいという非常に熱心な市民のみなさまのお気持ちがうかがわれまして、頭の下がる思いをしたわけです。

今回も、先ほど開会式で実行委員長さんのお話でありましたが、市民と行政が一緒に手を携えて、まさに協働して行おうということで、実行委員会という方式を編み出されたようです。言うならば、手作りのサミットと言ってもいいかと思っています。先ほどの下河辺先生のお話でも、21 世紀の日本というものを考えるときに、ボランタリーの人々とさくらとの交流が非常に重要なのではないかとおっしゃていましたが、この日立市さんは、早くからそれを目指してやっていらしたということになるわけです。

さて、今回のテーマは、「桜と語るさくらの未来」、副題が「元気さくらとネットワーク」というわけです。今日の進め方ですけれども、この大きなテーマのもとに、実はサブテーマが四つあります。「桜と語る」「さくらの未来」「元気さくら」「ネットワーク」という四つです。起承転結という言葉がありますが、ちょうどそれにドンピシャリ。4 本のサブテーマが用意されていますので、うまく起承転結といけばありがたいと思っています。

それでは、さっそく始めたいと思います。まず「桜と語る」です。みなさん、「桜と語る」と書いてあるところが一つミソかなと思うのです。「桜を語る」のではなく「桜と語る」。果たしてどういうふうな会話を桜としていらっしゃるのでしょうか。まず問題提起ということで、熊本県の水上村さんからお話を賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。

【熊本県水上村収入役・原田凱喜】　ただいま紹介いただきました、熊本県水上村収入役の原田です。本来なら、村長が出席するはずでしたが、急遽用事で出席できませんので、私が代わりま

して出席しました。それが先週ですので、課題の「桜と語る」というテーマに合うかどうかは分かりませんが、水上村のさくらをご紹介させていただきます。

水上村は、九州中央に位置する熊本県の南東部で、九州脊梁山地の中にあります。尾根の県境を挟み、平家の落人伝説で有名な宮崎県椎葉村と接し、また、五木の子守唄で有名で、川辺川ダム建設が計画されています、本県の五木村と接しており、全面積の 90%が山林という村です。日本三大急流は、先ほどご説明がありましたが、本州の最上川と富士川、それと九州の球磨川です。その最上流にあるのが、この水上村です。水源があるということで、「水上」と名前が付けられました。

この「水上」というのは、全国の市町村では、わが村と群馬県の水上町さんだけです。そういうわけで、両町村は、平成 4 年 7 月に姉妹町村の提携を結び、親しくご交流させていただいています。

本村のさくらのかかわりは、他の地域のように長くはなく、今から 40 年前の昭和 35 年、1960 年、村の中心地に市房ダムが完成したことが始まりです。当時の人たちが、水上村は山ばかりで何もないから、この市房ダム周辺を桜の名所にしようと、翌年から周囲 14 キロの道路沿いに、ソメイヨシノを主に 1 万本の桜を植栽したのが現在に至っているわけです。さくらまつりも今年で 30 回目です。植栽後、10 年目には、さくらまつりを始めていますが、桜の花をいっぱいつけて、見ごろになるのは 15 年か 20 年は経たないと、見ごたえがしないものです。

このような中で、木がだんだん大きくなるにつれ、桜の名所として有名になるようになりましたが、一気に有名にしたのが、当時の熊本県知事でありました細川護熙氏が提唱した活力と個性ある「くまもと日本一づくり運動」です。この日本一づくりの第 1 番目の指定が、昭和 59 年（1984 年）で、桜の樹齢が 23、24 年のときです。その小国町、中央町、本村、三つが日本一づくりに取り組んだわけです。

わが村の日本一のさくらの里づくりについては、このさくらサミットにご列席の方々には、たいへんおこがましい話で、たいへん恐縮に存じておりますが、本数、規模において、日本一には到底なれそうもありません。しかしながら、日本一のさくらの里づくりによって、ハツラツと個性ある村をつくる住民の意識改革をすることが目的ですので、ご了承をお願いしたいと思います。

この事業を行うにあたっては、2 回のさくらのシンポジウムを開き、林学者、地域デザインの大学の専門の先生に聞いていますが、今日ここにご来賓としてご来場いただいております日本さくらの会理事の土屋桃子先生もその 1 人です。その中で、村を桜で埋めるようにするとか、桜材の木工品の開発、販売を行うようにするとか、いろいろと提言を受けました。その中の、桜植栽については、その後約 2 万本以上の桜を植えました。

全国の桜の種類は、250～300 種類あると言われていますが、本村の気候に合う約 100 種類、250 本を植栽した桜図鑑園の造成、桜の木を 1 万円で購入いただき、本村に植栽していただくさくらオーナーの森の造成等を行っています。これらの桜は、今 15 年程度で木が小さいのでまだ花は少ししかつきません。成木になるにはあと数年かかると思います。

そのほかに、さくらまつりを盛大にして、お客さんを呼び、農林産物の販売促進をしようと、有名な芸能人の方々を呼んだり、和太鼓を創作して大変好評を受けました。また、スポーツの祭典も、中学生の招待野球、女子ソフトボールなど、今では九つのスポーツ大会を開催するようになりました。このようなことから、県の支援もあり、新聞やテレビ等のマスコミに大きく取り上げていただいたので、県内では水上村のさくらの里づくりを知らない人はいないくらい有名になりました。

桜の木を主体に、木工品の開発と販売を手がけましたが、このような木工品の販売や和太鼓、農林産物の販売等は、今どこでも手がけているので、なかなかうまくいかないというのが現状です。

その後、さくらの里づくりから、人が輝き地域が輝く熊本づくり、卓越の村づくりなどの県が支援される地域活性化対策にいろいろと取り組み、住民の意識も大分変わりました。お陰で道路の改良も進み、いろいろな施設も充実し、他町村からうらやましがられるようになりました。

さて、桜管理の面ですが、このさくらの里づくりが始まり、住民の方々も参加いただくようにしたいということで、行政区の区長さんを通じて住民の方々に呼びかけ、桜の下の草払いをボランティアにしていただくようにお願いしました。ダム周辺の下刈り区間を各行政区に割当て、毎年同じ区間を夏の暑い 7 月、その区の都合のよい日曜日に 1 日 2 時間程度の作業をしていただく

ものですが、全戸数 930 戸のほとんどの方に参加いただいています。
　また、中学校 1 校、小学校 3 校ありますが、その生徒さんたちにも、ボランティアとしてダム周辺の空き缶拾いや、ちり拾い等を行っていただいています。決して無理をしないということできており、残りは村直営で草払いを行っています。
　なお数年前に、当初植栽した桜も、35 年程を経過して、ところどころ樹勢の衰えも見え始めたので、日本花の会の樹木医さんに診断をお願いしました。その結果、密植のところがあり、間伐または移植が必要であること、土壌が悪いところがあり、土壌改良の必要があること、テングス病の駆除を徹底的に行うことなどの提言を受けました。さっそくこれらに取り組みましたが、土壌改良は、ＥＭぼかしと言いまして、米ぬかや骨粉等の肥料の中に、ＥＭ菌を入れたものを幹の周りに散布するものですが、そのお陰で、昨年ごろから花の数が多く、きれいなピンク色になったようで、大分樹勢が回復したようです。
　また、桜にとって天敵とも言われるテングス病の駆除は、毎年多額の経費を使っていますが、木がだんだん大きくなるに連れ、枝打ち用の長いノコも届かなくなり、またダムのほうは崖となっていますので、木に登ることもできません。それで、電気工事用の高所作業車を借りて行ってきましたが、今では他の作業にも使うということで中古車を買い、駆除を行っています。
　今年のさくらまつりは、3 月 31 日土曜日の桜の花の下を走る健康マラソン大会、それから翌日 4 月 1 日が本祭りでした。土曜日がちょっと寒の戻りがありましたが、両日とも天候に恵まれ、花も満開で、たいへんな人出でした。車も多く駐車場もいっぱいで、一時 14 キロあるダム一週の道路に、車がつながったと聞いています。このように桜が満開で、天気がよいというさくらまつりは、数年に一度あるかないかのことで、たいへんにぎわったわけです。
　桜は、みなさんご存じの通り、植栽して 20 年以上経たなければ、きれいな花はつきません。それゆえに、大きく育った桜の木をいかに長く花を咲かせるかが大切なことだと思っています。
　ここで、ご参加のサミットの方々も、それを分かっておられると思いますし、そのためにいろいろとご苦労もあると思います。全国に桜の名所もたくさんあり、桜を守る、さくら守の方や、地域住民の方々もたくさんおられます。私たちの水上のさくらも、みなさんに負けないように一生懸命に育ててきれいな花を咲かせ、大勢のみなさんに見ていただきたいと思っています。九州の山の中でたいへんと存じますが、いつの日か機会がありましたら、水上の桜を見においでいただきますようにお願いしまして、まとまりのない話ですが、私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【篠田】　一番バッターをこなしていただきまして、ありがとうございました。スムーズにサミットをやっていきたいと思いますので、コーディネーターの特権として、私のほうから指名させていただきますので、その自治体におきましては、簡潔に意見の開陳をお願いしたいと思います。
　先ほど、下河辺さんから、さくらの外交官という話がありました。岐阜県の根尾村さんのほうで、今の外交官ぶり、あるいはその他のことでも結構ですけれども、お話しいただければと思います。よろしくお願いします。

【岐阜県根尾村助役・佐藤時久】　岐阜県の根尾村です。ただいまご紹介されましたように、今ちょうどアメリカのワシントンのポトマック公園の河畔で淡墨桜の苗木を植えまして、それに招待されてうちの村長も行っているわけですけれども、アメリカやブラジルのほうへも行っているわけです。淡墨桜が各外国のほうへ行っていますので、そういうことで忙しいということもありまして、村長が出席できなかったことは、たいへん申し訳なく思っています。

　本村にあります淡墨桜については、雪害、風の害があります。テングス病については、ついていませんということを申し上げます。ということで、よろしくお願いしたいと思います。

【篠田】　たいへん遠慮がちにお話しされたわけですけれども。それでは、次に新潟県の加治川村さん、よろしくお願いします。

【新潟県加治川村産業課長補佐・中野廣衛】　新潟県の加治川村です。当村では、誇るべき桜という名所は、2 ヵ所ありました。一つは、長堤 10 里、40 キロに 6000 本植栽され、当時としては、日本一と言われた加治川の堤桜の並木。それからもう一つは、桜の原生林ということで、長い年月の間に交配が進み、ヤマザクラの変種が 40 種類以上大木 1000～1500 本以上あったと言われ、昭和 9 年に国の天然記念物に指定されました橡平の桜樹林の 2 ヵ所です。

加治川村の堤桜は、昭和 41 年、42 年に連続で発生した羽越水害で、堤防決壊の一要因ということで、河川改修に伴いすべて伐採されてしまいました。その後、ぜひあの姿を復元したいというたくさんのみなさんの声が上がり、平成元年に建設省、「桜堤モデル事業」というものがありまして、その認定を受けて、平成 4 年から植栽を始めています。現在両岸で約 3000 本ぐらいが植栽されました。最初に植えたものは、今はかなり大きく育っております。

モデル事業は、両岸の関係 4 市町村で取り組んでいるのですが、桜の管理状況は、その町村ごとで大きな差が出ているのが現状です。それが、もろに樹勢にも表れてきているように思います。植えるまでは、とかく話題になったのですが、植栽後の管理という面で、これは非常に大切であると感じています。

それから、桜樹林のほうは、自然に昔から大木、育って、朽ちて、それから芽が出て、また大木になってというような、自然の法則に従って現在に至っているわけです。これからの自然環境を考えた場合、特に酸性雨など、影響がどうのこうのという結果は出ていないのですが、これまでのような格好で生き残っていくかというのが結構心配です。そういったことを含めた環境的なことにも、気を配っていかなければいけないのではないか、と思っています。

この 2 ヵ所と、あと新しく平成 9 年から 109 種類のさくら 2 本ずつと、元々あったヤマザクラを整理して桜公園というものを作っています。まだ、木が小さいので、みなさまにご披露というところまではいっていませんけれどもこの 3 ヵ所があります。この管理には、村のほうでさくらの里づくりの会というものを平成 3 年に作りまして、会員が 200 名ぐらいいるのですが、山の手入れ、さくらの手入れ等を行っています。

【篠田】　ありがとうございました。昔は、土手に桜を植えるということを、建設省がむしろ反対していた時代がありました。今お話を聞きますと、建設省のモデル事業であるということで、なかなか時代は変わったのだなという感じがします。

それでは上越市さん、発表がありましたらよろしくお願いします。

【新潟県上越市副市長・大野　孝】　新潟県上越市です。上越市というところは、直江津市と高田市が合併してできたまちということで、今年でちょうど合併 30 周年を迎えます。この中で、さくらというものを見てみると、城下町高田の高田公園、この周辺で桜が咲き誇っています。この高田公園の桜については、ちょうど明治 42 年に、陸軍の 13 師団が入城した。その年に記念に植えられたということです。そのときに市民のみなさん方が、軍属のみなさん方と桜を通して語り合おうということで、寄付を募って植えられたということです。そして現在は 4000 本の桜がこの高田公園にあるという状況で、ちょうど今日から観桜会というものが始まっています。そのために今日は市長が来られないということになり、私が代理でやって来たということです。

そういう中で、ちょうど高田公園の桜というのはさくらを通して交流していく、市民のみなさんと新たに入ってきた軍属のみなさん方が語り合う交流の場としても、桜というものが使われてきたということがあるわけです。まちづくりの仕掛けの中でも、現在桜を活用したまちづくりということを進めています。それは、「一万本の桜が咲き誇るまちづくり」事業ということでやっています。ちょうど今年、上越市は桜が 1 万本になりました。

どういうことをやってきたのかといいますと、当然、桜については高田公園が中心、発信地になっているのですが、その高田公園へ導入する主要な街路を、桜で誘導するというような形で植樹を進めました。そして、高田公園の周辺の民家の方々に、自分の家に植えませんかということで苗を進呈して、「桜を市民のみなさん方で植えていきませんか」、そしてさらに「みんなで桜を通して語り合っていきませんか」というような仕掛づくりとして、「一万本のさくらが咲き誇るまちづくり」事業というものを進めてきたということです。ちょうどこの 21 世紀最初の年、30 周年という節目の年に、ちょうど 1 万本ということが達成でき、これからも市民のみなさんと桜を通して、高田公園で語り合っていこうかということを進めていくということです。

【篠田】　ありがとうございました。それではもうひと方、北郷町さん、よろしくお願いします。

【宮崎県北郷町収入役・後藤孝光】　それでは北郷町のさくらについて、お話しを申し上げたいと思います。北郷町は面積の 80%は山林です。その山林の 70%は人工林の飫肥杉が植栽をされているところです。この人工林の境界用に、カシやヤマザクラが使用されていることと、わずかではありますが、天然林の中に、相当数のヤマザクラが自生しており、毎年 2 月下旬から本町の周囲の山々が、白い帯をなして、春の訪れをいち早く感じさせているところでもあります。

また、本町には江戸時代の参勤交代道路、飫肥街道と申しますが、これが一部残っていて、この街道の沿線に桜が植栽されていました。相当数の樹齢と推測されます。現在は、この桜の保存を含めて、街道の復元整備計画が進められているところでもあります。このようにして、本町の生活の中にさくらが関わっており、さくらによるまちづくりを目的として、昭和 55 年度から行政とともに、自治公民館や企業の協力を得て、空地や公園、沿道に植栽を推進してまいったところでもあります。

町としては、主に標高約 300 メートル、面積が 10 ヘクタールの町有地に植栽を進めてきました。平成 10 年度までは、毎年 200 万円程度の植栽と下刈りの管理などの育成作業が主であったわけです。毎年のように、台風による倒木被害も受けていました。この補植数も、かなりの数量に上っているようです。この地においては、平成 10 年度までは、花立高原として表現をしましたが、桜の花を楽しめる成木は相当数になりました。

また 11 年 4 月、当地でのさくらサミット開催を機会に、花立さくら公園に表現を変えて、歩道や東屋、展望台を整備し、春には提灯等もつけて、さくらまつりを開催しているところです。当北郷町においても、今日と明日、さくらまつりを実施しているところでもあります。今後また、さくら公園としての桜の十分な育成管理を行い、さくらの景勝地として、かなりの面積でもありますので、低木や草花の植栽等も行い、四季を通じて利用される公園となるように、現在、整備や管理を行っているところです。

【篠田】　ありがとうございました。ちょっとここで、根尾さんにお聞きしたいのですけれども、淡墨桜の苗木が海外、アメリカやブラジルのほうに行っているようですが、日本の国内で、やはり淡墨桜が欲しいなという人もいらっしゃると思うのですが、それはいただけるようなことになっているのですか。

【岐阜県根尾村・佐藤】　老人会のほうで苗を育成しているので、申し込んでいただければよろしいです。

【篠田】　ということですので、淡墨桜を自宅に入れたい方は、根尾村の老人会のほうで提供されるようです。みなさん、ひとつ挑戦してみられたらいかがかと思います。

それで、この「桜と語る」でとりあえず話を起こしましたので、次に起承転結の「承」ということで、「さくらの未来」というサブテーマに移らせていただきたいと思います。ご発表は、島根県の木次町さんです。よろしくお願いします。

【島根県木次町産業振興課長・本田　宏】　「さくらの未来」という、たいへん壮大なテーマを与えられ、いささか戸惑っています。先ほど下河辺先生もさくらの未来、人とのかかわりの中での未来というようなことをお話しされたところです。木次町での取り組みをお話しさせていただきたいと思います。

木次町では、昭和 62 年、第 4 次総合振興計画を策定し、この中で町の将来像を「さくら咲く健康の町」と定め、そのシンボル事業として日本一のさくらのまちづくりを進めているところです。この翌年の昭和 63 年には、第 1 回のさくらサミットを開催させていただいています。

町のシンボルであるさくらは、出雲神話「やまたのおろち」（神楽でよくやりますのでご存じだと思います）ゆかりの斐伊川という河川があり、その堤防の桜並木で、約 2 キロメートルの堤防に 800 本余りのソメイヨシノが作り上げる桜の花のアーチは、昭和 20 年代中ごろより、中国地方随一の桜トンネルと賞され、毎年 4 月上旬には多くのみなさんが訪れられ、見る者を魅了しています。

ここで本町のさくらの歴史ですが、この斐伊川堤防の桜並木は、明治の終わりごろから町民の

手によって植えられ、本格的には昭和 2 年の昭和天皇のご大典記念として、町内会等が堤防の両側に植栽したものです。当時の小学生たちは、桜の木に名札をつけ、それぞれ水や肥料を与え、競うようにしてこの管理を行ったということです。こうした方々が、今は老人クラブで非常に懐かしく思い出しながら、再び桜のお世話をしていただいているところです。

戦時中の燃料不足の際に、軍より木炭の材料として供出命令があったようです。伐採していわゆる炭の材料にするということですが、当時の町長をはじめとする町民の熱意により、その代わりにほかの木材を余計に供出するということで何とか話をつけて、この伐採の難を逃れました。また、この斐伊川は、やまたのおろちの伝承のとおり、非常に暴れ川であり、洪水がよく起こるわけですが、この桜があったがために、表面を桜の根が縛っていて、決壊を未然に防いだという話も残っていて、桜と木次町民は、長い歴史の中で大きな関わりを持ってきています。

昭和 48 年に遡りますが、町民有志、企業、町が中心となって、「健康の町木次さくらの会」が設立され、町内の桜の保存運動を続けて、現在に至っています。これに町としても相当額の助成をしているところです。長年の活動のお陰で、住民の桜に対する愛情が高揚して、本町の桜の今日があると考えています。

平成 2 年には、斐伊川堤防桜並木が財団法人日本さくらの会より、日本さくら名所 100 選に認定されました。これが契機となり、ふるさと創生事業にも位置づけ、日本一のさくらのまちづくりへの活動が一層勢いづいてきました。

この中で一つは、20 世紀のうちに 5 万本の植栽をするという計画を立てていましたが、昨年秋、5 万 2000 本まで植え、めでたく達成しています。もっともそのうち 4 万 8000 本は山林に対する植栽です。スギやヒノキ、ナラといった木と一緒に混植するわけです。そうした造林事業を使って、桜を山に植えているところです。

それから町としては、さくらの会においてさくら守（樹木管理の専門家）さんを嘱託として雇用していまして、その人を中心に桜並木の保存・育成をはじめ、特産品の開発などをしています。この特産品については、今日もさくら茶がありましたが、さくらの花を練りこんだうどん、桜めん、それからさくら赤飯、これはアルファ米を使っています。さくら茶。そして、今年はさくらの花見に間に合うようにさくらソフトクリームを開発したところです。また、桜の新しい品種として、木次笹部桜の育苗をはじめ、新たな名所作りに取り組んでいるところです。

ここで木次笹部桜をご紹介いたします。ご承知の方も多いと思います。さくら博士と言われました、東京大学の法学部を出て、生涯を桜にささげられた故笹部新太郎翁です。「私が作り出した桜の 60 万本の最後に生き残った 1 本だ」と言われ、ソメイヨシノに負けない、ヤマザクラの気品を受け継いだ新しい桜で、笹部桜と命名されています。特徴として、ヤマザクラですからテングス病に強い。それから苗木の成長が非常に速い。風雪など天災に強い。非常に巨木になる可能性がある。可能性というのは、まだ年数が浅いわけで、だいたい親を見れば巨木になる可能性があるということです。花の咲く時期ですが、あまり遅れないということです。ただ木次町では、ソメイヨシノに比べて、4～5 日遅れるような状況です。花に気品がある。そして若葉の色や形がよい。こうした特徴で、笹部翁が一番気に入った品種でした。

これが全国で多分 2000 本ぐらいしかない希少種だと思っています。たまたま平成 6 年、木次町は縁があり、特別に 500 本ほど譲り受けることができました。現在継ぎ木等により増殖を図っています。新しい桜の名所を、この笹部桜でもってつくることも行っているところです。次世代の木次の桜として大きな期待をしています。この桜の未来も大きな楽しみです。

平成 10 年、この斐伊川堤防桜並木の生い立ちや歴史を振り返り、いかに町民とさくらが接してきたかを題材にした町民参加の創作劇桜並木の物語「ひと花の吹雪」が上演されました。この劇のオープニングは、未来の 2023 年、堤防の桜の木がみな年老いて、春になってひと花も咲かないというショッキングなシーンから始まります。ずっと過去をさかのぼり、桜が植え始められた明治時代、それから紙市や行商でにぎわった昭和初期、そして二度と帰ることがなかった出征兵士を数多く桜たちが見送った第二次大戦末期、高度経済成長にわく昭和 30 年代。その時代時代に桜とともに精一杯生きた人とさくらの物語でした。過去、未来を通して、さくらと人間の共生をテーマとしたものです。

この劇上演の引き金になったのは、町民有志のみなさんが集まって、斐伊川堤防の桜が町のシンボルになっているわけですが、これを未来に引き継ぐためには、やはり正しく歴史を伝えていかなければならない。本に書いても広報に載せても、なかなか読まないので、こうした演劇とい

う形でそれを伝えていこうということでした。この劇は、日本さくらの会さんのたいへんなご協力を得て、11 年 3 月には、東京でも上演させていただいています。斐伊川堤防桜並木からの熱いメッセージを、お届けできたのではないかと思っています。

そして、この劇上演をきっかけにして、木次の小学校では社会総合の授業でさくら守さんをお招きして、桜の保育に関する課外授業、また桜並木や木次公園の清掃、植樹、そして桜の四季をつづったパンフレットをそれぞれ子供たちに作らせるなど、いろいろ行っています。中学校においても、桜並木の清掃奉仕や、学校裏山に桜の植林地があり、それの親子草刈り作業にも参加したり。また老人クラブのみなさんは、桜並木の芝生の手入れを各地区単位に割り当てて、年間定期的に行っておられます。

このように、さくらを通して郷土愛を育むと同時に、さくらに関心を持ち、年間のさくら管理をすることで、自然の素晴らしさや環境の大切さを感じる感性を養っています。「さくらの未来」という壮大なテーマに対して、いささかささやかな実例でお恥ずかしいところですが、住民のみなさんの自然教育、環境教育の一翼をさくらが担っていることをお話しして終わります。

【篠田】　ありがとうございました。「さくらの未来」ということになると、現在非常に素晴らしい桜が今後もそのまま咲き続けるのかなと、いろいろと心配の種があるわけです。シダレザクラというと角館となるわけですが、そういう点について、非常に先進的に取り組んでいらっしゃる角館さんのほうから、よろしくお願いします。

【秋田県角館町助役・岩本孝一】　秋田県の角館町です。角館というと、今や年間 230 万人という観光客が訪れていらっしゃいます。何しろ人口 1,5000 人の町ですので、230 万人ということは、ある意味ではたいへんな数です。わずか 2 週間の観桜会の期間に、230 万人の半分の 120 万人という非常に大勢の方がお見えになっています。それだけ桜とは切っても切れない縁だと思います。

目玉が二つありますけれども、そのうちの一つが、先ほどの木次町さんと同じように、2 キロの花のトンネルということで種類はソメイヨシノです。昭和 9 年に、今の天皇陛下がお生まれになったのを記念して植えたということですので、樹齢約 70 年です。先ほど下河辺先生が申されましたように、正しく桜が人に救われたいというふうな時世ではなかろうかと思うわけです。

そういうことで、平成 10～11 年度に、桧木内川堤（サクラ）保存管理計画策定報告書を作成したわけです。これは、国庫補助県費補助を得て保存管理計画策定委員会を組織し、作成しました。今日この会場に、私どもの役場の樹木医である黒坂という職員がそこにおるわけですが、言ってみれば文化庁、県の指導助言をいただき委員の執筆で事務局の黒坂が編集してでき上がったのがこの管理計画報告書です。今日はせっかくの機会ですので、サミットご参加の市町村のみなさまに、もれなく差し上げたいと思っています。先ほど渡しました封筒の中身がそれです。桜の管理マニュアルもありますのでどうかぜひ、ご一読願いたいと思うところです。

その中身は後でご覧になっていただきたいと思うわけですが、一口で申しますと、やはり保存・管理というのは、桜が老木になったから伐採して、植え替えをするということではなく、今ある桜をどういうふうにしたら保存・管理していけるのかというふうな環境改善だろうと思います。そういうことで、管理計画に基づいて、平成 12 年、昨年ですが木の周りを人手で掘って、栄養分のある土壌に入れ替えたり、あるいは人や車に踏まれても根が伸長するよう地下にパイプを入れたりして、具体的な保存策を実施させてもらっているところです。

それから、もう一つの目玉である、武家屋敷のシダレザクラ。これはまた江戸時代からの流れをくんでいる桜です。樹齢三百数十年ということで、まだ樹齢的には寿命でもないわけですけれども、これも一昨年、昨年、今 152 本ばかりあるわけですが、平成 11～12 年度 1 本 1 本調査し調査報告書を作成しました。今年平成 13 年度に保存管理計画を策定する予定ということですので、また乞期待ということです。桧木内川堤の桜と違い生育環境が大変多様であり画一的に保存策をとれないようですが、いずれにしても踏圧防止、土壌改良ということが中心になろうかと思います。

角館のさくらがこれまで全国的に有名になったというのは、先人からうまく引き継いできた、先人のお陰にほかならないわけです。したがって、私どももこれから後世の人にいかにこれを保護していくかというのが至上命題です。ですから、いたずらにこれからは「うちの町は桜が何万

本ある」、これはこれでいいでしょうけれども、本数を競うということよりも、今あるさくらをどう保存管理していったらいいのかということが本音ではなかろうかと思いますので、よろしくお願いいたします。

【篠田】　ありがとうございました。先ほどお名前が出ていました黒坂さん。このあいだ朝日新聞にドンと出ていました。今お話にあったとおり、その記事には、「植える時代から育てる時代」という重要なキーワードが書かれていました。

それでは、続きまして北本市さんよろしくお願いします。

【埼玉県北本市まちづくり推進部長・勝　豊】　「さくらの未来」、その副題として「さくらと市民運動」あるいは「22 世紀に遺すさくら」、こういう副題をいただいています。したがってこの視点で若干意見を申したいと思います。

実は、平成 9 年度に北本市はまちのイメージアップ推進計画というものを策定しました。その推進計画のキャッチフレーズとして、「さくらと範頼伝説のまち、感動桜国きたもと」を据えました。この「おうこく」の「おう」は「王」ではなくて、桜を「おう」と読んで、このようなキャッチフレーズをつけました。そしてこの中で、さくらと北本の地にゆかりのある源範頼を絡ませて、市民運動を盛り上げていく。このような形で計画を策定しました。そのいくつかをご紹介します。

一つとしては、国の天然記念物として指定されている石戸蒲ザクラに関する諸事業の展開があります。その一つは、樹齢 800 年と伝えられている、この石戸蒲ザクラ。実はこれはエドヒガンザクラとヤマザクラの交配種で、非常に珍しい種類だと言われています。したがって、この桜の名前を後世に残し、また広めるために、実はクローン技術を用いて、その後継樹 2000 本あまりの増殖を現在進めています。この大半が 3 年くらい後には、2.5 メートルから 3 メートルくらいに成長するので、現在その植栽計画を市民とともに練っている。

また、市民のみなさまの協力を得て、石戸蒲ザクラの名前をつけた日本酒や和菓子を特産物として売り出し始めました。また、樹の姿を絵柄にした包装紙、あるいはＪＲのイオカード、こういったものを作り、広く民間の利用に供している。

それから、もう一つ紹介させていただきますが、この石戸蒲ザクラを植えたと伝えられている源範頼は、実は源頼朝の弟、義経の兄に当たるわけですが、現在ＮＨＫの番組で「北条時宗」を放映しており、兄の時輔の悲劇が描かれようとしています。この時輔の境遇に似ているのが源範頼だと聞いています。実はこの人の伝説をテーマに、小説を北本市が出版しました。そして、この小説を市民をはじめ多くの人に現在読んでいただいており、このことが石戸蒲ザクラに対する思いを深めると同時に、郷土愛の醸成にもつながっていると考えています。ちなみに、この小説の名前は『蒲桜爛漫』、作家は『春日局』等の歴史小説で知られている堀和久氏です。

以上、おおざっぱではありますが、現在北本市が進めているさくらに関する市民とのかかわりについて、その一端をご紹介させていただきました。

【篠田】　ありがとうございました。それでは、愛知県の三好町さん、お願いします。

【愛知県三好町長・塚本三千雄】　愛知県の三好町です。私どもは昨年ご承認をいただいて、こういう会に、今日初めて出席させていただいている新米です。私のところは、名古屋と豊田の真ん中で、東名高速道路で名古屋の手前に東名三好インターというのがありますが、ここの町です。主には、ゴルフをおやりの方は東海クラシックの三好カントリーをご存じだと思います。あとはトヨタ自動車の工場に四つほど来ていただいています。三好カントリーにも実は桜が 5000 本植わっています。ぜひお越しをいただいたらいいかと思う次第です。

歴史は非常に新しいわけで、今日のテーマをいただきましたように、未来に向けてさくらとのかかわりや、さくらとの交流をしていきたいという構想を持っているところです。少し歴史を申し上げますと、昭和 33 年に町制を施行したときに、2000 本ほどさくらを植えています。これが

三好池と言いまして、周辺が 4.5 キロあります。ここですでに 18 回になりますが、4 月の第 1 日曜日に「桜マラソン」、民間のみなさんが「走ろう会」という会を結成し、今年も埼玉から高知まで全国で二千数百名のみなさんにお越しいただいています。最高齢者は、今年は 95 歳、女性は 78 歳という方に楽しんでいただいています。桜がちょうど満開で満喫をいただいています。こういう行事も、すでに行っています。

近年では、「カヌーの町三好」と標榜していて、これも 8 回目を数えますが、この 4 月に、しかも国際のだいたい 10 ヵ国ぐらい来てくれますが、女性だけのカヌーの大会を国際プログラムで進めています。2004 年には、保田ヶ池公園といって、周辺 1 キロです。ここにも桜をかなり植えていますが、この桜の中で、カヌーポロという競技がありますが、これの世界選手権をアジアでは初めて開催させていただく準備をしています。さくらにちなみながら交流をしていきたいという構想を実は基本的に持っています。

平成に入りまして、日本さくらの会のみなさんのお力をいただいて、たくさんのさくらを植えながら進めているところです。今後の考え方は今申し上げましたことの中で、「さくらの園」というものを作っていこうということで、これもプランをすでに作っていただきました。役所の敷地のみならず、みなさんの土地にも遠慮なく植えさせていただこうという狙いであり、68 ヘクタールほどさくらの園計画をしていきたいということで、すでに進めています。

今年、もうすでに植栽をしましたが、さくらの会というのを一昨年民間で設立をいただきました。350 名ほど会員がいらっしゃいます。今年も 350 本植えたのですが、500 人ぐらいいらっしゃいまして、ちょっと恥をかいたところです。ネームプレートのようなプレートを作り、みなさんが孫の記念や小学校へ上がる記念や、金婚式という方も結婚という方もあり、今年、試みましたけれども、倍以上の方にお越しいただいて、事務局が慌てたということも勉強しながら、さくらを広めているところです。

ちなみに、今町内にどのくらいさくらがあるかを調べたら、1 万 6000 本ありました。公共に 7000 本、民間の会社や企業などに 8000 本植わっています。個人の家に植えていただいたのが約 1,000 本、こういうところが現況です。さらに交流を進めていこうと思っている次第です。

さくらというのは、何でこんなに近年三好の町で人気が出てきたかというのは、やはり冬から春に、桜の花が咲くと、最近はやりのウォーキングや歩く人がたくさん増えてきます。私も 10 年ぐらい、実は朝 5 時から散歩をしていますが、みなさんが非常に親しむ、いい交流ができる。国際交流もできますけれども、国内交流もできるし、近い周辺の地域交流ということも盛んにできていきます。お陰さまで、昨年のワシントンへは、日本さくらの会のご配慮で 5 名ほど町民も派遣しました。そういうことにより、町民の目がだんだん育ってきたなという感じがしています。こういう会に昨年からみなさんにご理解いただいて、参加させていただくことによって、もっともっと広げていきたい、また住民のみなさんの期待に応えていきたいと思っている次第です。

実は、明日も早春のさくらの三好路を歩こうと、愛知県のウォーキング協会と三好町のウォーキング協会共同で、地下鉄が豊田まで来ていて、そこに三好ヶ丘という駅があります。そこから 23 キロ名鉄本線の豊明市というところまで歩こうということで、三好の中をずっと桜道を歩いていただく行事を明日も予定している次第です。たくさんのみなさんにご協力いただきながら、良い未来へ向かってさくらの町をつくっていきたいと思っています。

今日は、会に入れていただきましたお礼と、こういう夢を持っていることをみなさんにご報告申し上げて、一層のご支援を賜れたらありがたいと思います。よろしくお願いします。

【篠田】　ありがとうございました。それでは、大村市さん、よろしくどうぞ。

【長崎県大村市助役・島　信行】　長崎県の大村市です。長崎空港のある町で、現在人口、先ほど 8 万 5000 人という紹介をいただきましたが、現在年間平均で 1200 人ずつどんどん増えていて、今日現在 8 万 6500 人ぐらいになっているだろうと思っています。また、司会のほうから冒頭でちょっとご紹介いただいたのですが、明治の初期に物理学者、政治家、画家、医者といった非常に有名な方を輩出しているわけです。

今日参加のみなさんには、あえて荷物になるのですけれども配らせていただきましたが、その中の一人に長岡安平という造園家がいました。この人は、東京の芝公園をはじめ、全国の有名な公園をほとんど手がけているわけです。この人が大村出身です。例えば札幌の中ノ島公園、青森

市の合浦公園、盛岡市の岩手公園、秋田市の千秋公園、福井市の足羽山公園、広島の厳島公園。いろいろあるわけですが、その中で、今もってさくらで非常に有名になっている公園は数多くある。ただし残念なことに、わが大村市において、彼が庭を作ったというのはありません。ただ明治 17 年に、大村公園に桜を植えてくれた。それがきっかけとなり、平成 2 年 3 月、さくらの名所 100 選に選定していただきました。現在そのさくらまつりの最中で、3 月 25 日から 6 月 20 日までを花祭りの期間としています。

実は、昨年幸手市で開催されたシンポジウムに出させていただいて、各自治体の方が本当にさくらにこだわってまちづくり、地域づくりをやっているということで、たいへん感動しました。帰ってすぐ、わが大村市ももう少しさくらにこだわったらどうだろうか、もう一回こだわってみようということで、実際は平成 7 年から年間 500 本のペースでずっと植栽してきているわけですけれども、それだけではとても足りないということで都市計画課長や観光物産課長に話をしました。あるいは「さくらの街おおむら推進委員会」というものを立ち上げました。昨年幸手市でいろいろ刺激を受けて昨年度末に設立したわけですが、その委員長である造園組合からの代表も出席してもらっています。内容は緑化組合、造園組合、樹木医の人、そういう関係者の人たち、国の国土交通省の道路維持関係者の人たち、あるいは県の土木事務所の人たち、そしてわれわれ市サイドの人間が集まり、そういう推進委員会というものを設立したわけです。

そして、今年度（13 年度）においては、もう一度わが市のさくらの現状というものを調査してみよう。そして植栽が可能なところは全て植栽するということで、平成 13 年度から平成 22 年度まで、10 年計画で、西日本一のさくらのまちを目指そうではないかということで計画しているわけです。そして、大村市は平成 5 年にこのシンポジウムをさせていただいたのですが、できればこの 10 年の間にもう一回させていただきたい。今日、コーディネーターの篠田さんにもお話ししたのですが、来年が市制 60 周年で、5 年後の市制 65 周年ぐらいに割り当てていただけないかと思っているところです。

昨日、平和通りの桜を見させていただきました。照明装置に輝く素晴らしい桜並木で、これを見た途端にこれでは駄目だ、益々われわれとしては力を入れていかないと、とても日立市の桜にはかないっこないという感じを受けたわけです。今日、また各自治体のご意見を伺いながら、また夜桜を見学させていただいて、かみね公園の桜も見させていただいて、さらにこのさくら作りに励みたいと思っているところです。どうもありがとうございました。

【篠田】　ありがとうございました。たいへん他のところから刺激を受けやすい体質の大村市さんでした（笑）。ここで、サミットですので、起承転結の「起」「承」まで行きまして、ぜひともこれは聞いておきたいということがありましたら、どなたかからどなたかに対して、ご自由にご発言いただきたいのですが、ありませんか。今のところは、話を起こしてつないだだけですから、まず聞いているだけという感じかもしれませんが……。

それでは、特にないようですので、今度は転結の「転」。ちょっと話を転換していこうというところに来ますので、「元気さくら」といきたいと思います。発表を吉野町さんからお願いします。

【奈良県吉野町長・福井良盟】　奈良県の吉野町です。何で私が「元気」をお話ししなければいけなくなったのか、さっぱり分からないのですけれども、元気なさくらについてお話ししたいと思います。

実は、私どもの吉野町で桜が咲き始めたところで、今日と明日、来週の土曜と日曜、いわゆる郊外駐車場を作りシャトルバスを運行します。そのシャトルバスの責任者も実は一緒に連れてきていますので、今どうなっているかちょっと心配というところなのですが。

考えてみると、この会がなければ、私は一生よそのさくらを見ないで死んでしまったのではないか。吉野山に住んで、子供のときから育ちましたので、春といったらお客さんがいっぱい来て、てんてこまいしてお金もうけをしなければいけないシーズンということになっていたものですから、このさくらサミットというグループのみなさんに感謝しているところです。そんなことは「元気」と何も関係ないのですけれども（笑）。

「元気」ということを考えようとすれば、当然「元気」の反対、「病気」の状態、元気でない状態ということも考えなければいけないというふうに思います。それがちょうど私にとっては、

さくらサミットに参加させていただくようになったころから、吉野山の桜について、元気がないのではないかということを言われ始めました。そのときには、いろいろなことを、まず吉野山の地元のわれわれが考えました。桜にウメノキゴケというコケがついている。それかヤドリギがちょっと目立っている。このごろ、ヤマザクラなのにテングス病みたいなものも出てきている。それから、ウメノキゴケを黒くしたようなコウヤク病というのもある。そういうことは分かっていました。しかし、そういうことを調べていくと、基本になるのはやはり土壌ではないか。

それぞれ歴史をお持ちでしょうけれども、吉野山の桜というのはちょっとケタが違います。古今集には吉野山の桜について 3 首の歌が出ています。新古今集にはいっぱい出ているわけです。その中でも特に西行法師が吉野山の歌をたくさん詠んでくださいまして、新古今集に収められています。新古今集ができたのは鎌倉の初め、ということは平安の末には、吉野山はもうすでに桜の名所になっていたということになります。それからずっと桜の名所であり続けたわけですから、当然厭地になってきているのだろう。そういうことから想像して、専門家に見てもらいました。

専門家に見てもらった結果、今までの病気のほかに、ナラタケ菌という菌が土壌に蔓延しているということを思い知らされました。しかし、それよりもわれわれが水をぶっかけられたように感じたのは、手入れ不足という結論をバサッと出されてしまったことです。吉野山という山の斜面地にあるので、昔の人は肥担桶（こえたんご）を担いで、傾斜地であっても肥やしをやりに、時には肥担桶を持ったままひっくり返ったというううわさをわれわれは子供のころに聞いたほど、地元の人間が本当に一生懸命に桜に対して近寄っていたのです。傾斜地であるがゆえに、それがだんだん少なくなってきているということをはっきりと示されて、びっくりいたしました。

10 年前以外にも、実は吉野山としては、今まで危機的な状況にあったということも調べることができました。危機的になったということで、吉野山の桜をもう一度洗いなおそうという、『吉野山桜物語』という本を平成 5 年に作りました。今までにも危機的な状況はたくさんあった。一番近くは、戦後の時代です。それは、全国、食うことに困っていたときですから、できるだけ桜にちょっと退いてもらって畑にしようというようなことをやったらしいです。その前が明治維新のころでした。吉野山の桜というのは、修験道のご本尊、蔵王権現の御神木ということで植えられてきたものですから、その根本になる修験道がちょっと危機的な状況だったわけです。

危機的な状況というのは、いわゆる神仏混淆の宗教ですから、明治政府によって、神か仏か分からないような宗教は禁止するということを言われました。そのときには、桜の木というのは、お上の命にそむく元凶を示しているようなものだから切ってしまわなければいけない。切ってしまって売ってしまうという話。切ってしまって売ってしまうのですよ。江戸時代には、桜は堅木ですから、いわゆる出版の版木に桜の木を使っていたらしいのです。大阪の出版社から問い合わせまで来ていたらしいです。ところが、明治初期のその騒動のときには、吉野山の近くの村落の山主さん、造林で大成功した隣村におられた土倉庄三郎という人が、「大阪の版木屋に桜の木を売るのなら、私が全部それを買ってやろう」ということでお金を出してくれた。実際に桜の木は持っていかなかったのですけれども、お金を出してくれて助かったということがあります。

戦後の危機のどうしようもないような状態のときに、たまたま吉野山小学校という学校にいた宮坂敏和先生という校長先生が、子供たちに、桜が吉野山にあるという意味を教えるというところから始めてくださったのです。その教育の続きで、全国的に日本の国の日本人の心を守るためには、桜を広めていかなければいけないということで、子供たちにさくらんぼ拾いをさせました。さくらんぼ拾いをして、それを先生方が養って、木になりかけたころに全国に配布するという、今でいうさくらの会、花の会のみなさんがやってくださっているような事業をやろうとしたのです。今もそれは続いています。当然私も吉野山小学校卒業ですから、小学校のときにはさくらんぼ拾いをやりました。今もやっていますけれども、今ではどこでもというわけにはいきませんので、全国のどこかの小学校から要請があったら、それをお分けするというような事業をやっています。

その宮坂先生が、われわれに教えてくれた内容の中で、吉野の昔の人たち（おそらく江戸時代の人のことでしょう）は、桜の木を大切にしなければいけないから、桜の枝を 1 本折った者は、指を 1 本折られたのだ。桜の木を

切ってしまった者は、片腕を切られてしまったのだというようなことを話してくれました。しかし、吉野山に住んでいた子供として、そのときに、なんで桜の木で作った土産物を売っているのだろうなと思ったことがあるのです（笑）。これは文句を言うために持ってきたのではありません。土産物屋さんから借りてきたのですけれども、吉野びなというこけしです。桜の木をそのままちょっと加工するだけの人形なのですけれども、桜の木というのは、桜そのものをめでるという構造から、さくらの「元気」というのが始まっているのではないか。そこから「元気」にこじつけていきたいと思います。

素朴さと華やかさが両方備わっていなければ、さくらの「元気」というのはありえないと私は思っています。そして、それが湧いてくるためには、人間の感性あるいは人間そのものと、桜の木の付き合いというものを本当に大事にしなければ……、先ほど下河辺先生もちょっと触れられました。私が言ったらいい加減に聞こえますけれども、下河辺先生のお話は説得力があったと思います。本当にさくらと付き合うということがなかったら、さくら、あるいはさくらを介しての人間も元気になってこないのではないか。そして、さくらを見る視点というのも、時代によって変わってくるけれども、その人間の視点によっても「元気」というものが出てくるのではないかと思います。

吉野山では、非常にみなさん方に申し訳ないですけれども、ヤマザクラ以外の桜は桜の本数に数えていません（笑）。本居宣長さんが、「敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山桜花」。朝日に匂う「桜の花」とは言っていないのです。「山桜花」と言われたということで、みなさん方にこれを押し付けるつもりはないですけれども、私たちは、私たちの元気のためにもずっとこのヤマザクラでないと吉野の桜でないということを、今後も推し進めていきたいと思います。

吉野山の桜は、吉野山保勝会という財団法人を作り、そこでないと少なくとも切る権利はない。自分の土地に植えた桜であっても、吉野山のヤマザクラを切るのは、吉野山保勝会だけだということになっています。多分このひなを作っている人は、非常に困っておられた。しかし、実は平成 10 年に台風が来て、周りのスギ、ヒノキの林も相当被害を受けたのですけれども、桜の木も被害を受け 400 本くらい倒れました。それからこの方は元気を出してこられた。今どんどん作っていらっしゃいます。いろいろな面でさくらというのは、見るだけで元気になってくるものです。また元気のさくらを作っているところは、町の人間も元気なはずです。

昨日、日立へ来させていただいて、非常に元気そうな夜桜を見せていただきました。また平和通りをちょっと入ったところに、私どもは奈良県の吉野ですけれども、「ヨシナ」というスナックがあります（笑）。今日は、特別にその接待さんが 7、8 人いるんだということで、楽しく飲ませていただきました。日立市が元気であり続ける限り、日立のさくらも元気であろうと思います。しかし日立の人間がしょぼくれてくれば、きっとあの桜もしょぼくれてくる。私ども吉野町はそうならないように、私を含めて元気なまま過ごしていきたいというふうに、みなさんの前でお誓い申し上げます。

【篠田】　どうもありがとうございました。やはり、さくらの心を聞く耳を持たなくてはいけないという感じがいたしたわけです。

さて、それでは柴田町さん、あらかじめいただいた資料では、「柴田さくら百年計画」というものをお作りになっているということをお聞きしております。どういう話が聞けますか、よろしくお願いします。

【宮城県柴田町長・平野　博】　今、先を越されてまいったなと思っておりました。私の大好きな本居宣長、「敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山桜花」。本当にこれは日本人の心意気というか、あるいは美意識というか、非常に素晴らしい歌だと思います。ただ、私は先の大戦でさんざんぱら戦場におったもので、海軍の特別攻撃隊長の関行男と書いて「ツラオ」と言うのですが、これは九州からどんどん南に下がっていって、あるいはフィリピンのレイテ近海で、航空母艦に体当たりしたそうです。その敷島隊というのはここから持ってきているのです。それは大和隊とか、山桜隊とか、すべてここから発しているわけです。ですから、桜を見るたびに私は元気がなくなるような感じがするのです（笑）。

それのみならず、私は昭和 9 年の小学校出ですが、クラスメートの 15 名が二十歳そこそこで戦没しているわけです。男の子 45 名の村の小学校です。彼らは、伊達騒動で有名な仙台の南、

私の町ですが、原田甲斐宗輔の城址があるところです。そこに古い桜の木がいっぱいあります。老木、古木です。間違いなく彼らはわれわれと一緒に、そこで花見団子をごちそうになったり、運動会をやったり……。それが学校の近場なのものですから、彼ら 15 人、帰ってこなかったのですが、おそらくそれはあの世に行っても、その桜のことは忘れません。ですから、私はその山へ登るたび、公園に行くたびに、「おーい、さくら、元気でいけよ。長生きしろよ。いいか、長生きしろよ」と声をかけることをしています。

それから、私の町は大正 12 年に、白石川の河川改修の記念で隣の町の篤志家と、わが町の篤志家が力を合わせて、白石川の両岸に記念の桜をたくさん植えました。実は、私の父も仕事の面では関わりを持ったわけです。そして城址公園、今は「一目千本桜」となっていますが、おそらく町内全域には 1 万本を超えるはずです。それから、23 年前になりますが、さくらの会が発足しました。14 人で発足しました。今約 300 人近いです。ボランティアです。毎年 50～60 本植えているのです。そんなちんたらやらないで、バーッと植えたらいいんじゃないかという声もあります。でもそうではないのです。それは結婚式や祝い、誕生祝い、卒業祝い、入学祝い、いろいろなお祝いのあるとき、なった人が、今の単価でいうと 6000 円出していただいて桜のオーナーになってもらうのです。それをさくらの会が朝早くから恰好の場所に植栽しているわけです。その数がちょうどこの春で 1246 本になりました。つまり長く心に花、木を植えていこう。この運動そのものが実は目的であるわけです。そういう点で、町は一銭も出していません。

ただ桜の木の管理は、おっしゃるように公園などは当然手を加えます。と言ってはいけませんね。それから隣の町にある農林学校、高等学校は、テングス病の駆除などを毎年やってくれています。それから町でも、子供たちではちょっと手の届かない危険なところは、業者に頼んで、都市計画課にさくら係 1 人を置いてあります。それで管理を手抜かりなくやらせているわけです。

それから、このさくらというのは、木に咲いている桜ばかりではないのです。この 4 月 14 日、新たにオープンします「ホテル原田 IN さくら」となっています。駅前のホテルです。それから、リハビリパーク、老健施設、民間の法人格ですが、これが「リハビリパークさくら」となっています。それから、つい最近、渡り初めをやりました白石川の歩道専用の橋は、「さくら歩道橋」ということになっています。もう少しありますが、ＪＡの催事場、これは「ララ・さくら」という名前になっています。こういう具合に、町中がさくらだらけ。年がら年中です。そんな仕掛けといえば何ですが、いろいろな工夫が進んでいるところです。

それから、伊達騒動の中心人物は原田甲斐宗輔です。甲斐宗輔の居城はさっき言った通り、城址公園になっています。ただ、悪玉の親分だと言われてきたので、仙台萩で有名な歌舞伎、仁木弾正がそうです。宗輔がモデルだと言われています。ところが、山本周五郎先生が、『樅の木は残った』という長編小説を書いてくれました。これが山本文学の代表作品となっています。お陰で甲斐宗輔は大忠臣であったということになり、それから少しわが町民も肩身が広くなったということを正直思っています。

私の場合は、1921 年生まれですから、ここでは最長老だと思います。みな特攻基地から飛んでいくとき、私も軍人として見送ったのですが、みんな土地の女学生がちょうど 3 月、4 月、桜の季節、枝を折ってきて隊員にプレゼントした。それを帽子に挟んだり、飛行服へ挟んだりして、飛び立って行って帰らなかった。ですから、そういうことを見送った桜もたくさんあるわけです。さっき第二次大戦のお話がありましたね。その通りだと思います。ですから、それだけ見送ってくれた桜、老木、古木になっているから、元気を出せと。そして逆に言ってみると、元気です。こっちがどうもよぼよぼになりそうです（笑）。逆に元気付けられているのは私どもではないかと思っています。

この日立へ来て、本当に艦砲射撃で、あらかた町が吹っ飛んでしまったこの日立が、こんなに素晴らしく発展し、しかも桜王国と言っていいほど古い歴史とその素晴らしい景観を誇っているのには感服しました。これは本当に来てよかったなと。お陰で元気で帰れます。

【篠田】　ありがとうございました。若干時間が遅れつつありますので、片手に時計を持ちながら、時間をうまく調整していただきながらお話をいただくとたいへん幸いと思います。それでは幸手市さん、お願いします。

【埼玉県幸手市建設経済部長・小林清春】　昨年、サミットを開催させていただきました幸手市

です。幸手市では、「桜のまち幸手」をスローガンに掲げ、平成 6 年度から桜 10 万本運動を展開しています。ソメイヨシノが中心ですけれども、四季を通してさくらが楽しめるようにということで、秋にも開花する十月桜というものも植栽に取り組んでいます。これは、11 月に開催する市民祭りの会場として使用して、さくらにも親しんでいただいているところです。

それと本市の名所として有名な権現堂の桜堤には、1 キロメートルにわたり約 1000 本のソメイヨシノが植栽され、さくらまつり期間中には、50 万人以上の方においでになっていただいています。そうした中で、さくらについては、根元を踏みつぶしてしまうことが、桜に悪い影響を与えているということで、私どもとしては平成 9 年と 10 年、2 ヵ年にわたりその実態調査を行いました。その結果をふまえて、平成 12 年度から平成 18 年までの予定で、現在の桜を後世に残すために、老朽化が進んでいる桜から順に保護工事を進めています。それがさくらを元気にする事業です。

それともう一つ、さくらまつりを元気にする事業として、権現堂の桜堤の北側に、中川という川が流れているのですけれども、そこに昭和 22 年に隣接する茨城県の五霞町との往来を目的に、木の橋が架けられていたわけです。その後老朽化が進み、昭和 50 年代には通行禁止になっていました。この橋を、現在は埼玉県の協力をいただきながら、架け替えを進めています。

この橋は現在下部工なのですが、世界に 3 橋しかない橋で、4 橋めの橋になるわけです。自碇式のつり橋です。約 4 億円の工費をかけて施工しているわけです。これに竹下総理大臣の時代のふるさと創生資金が初めて投入され、現在工事を進めています。平成 14 年の 3 月、来年の 3 月には完成する予定ですので、さくらまつりがさらに活気を呈するのではないかと思います。ぜひご覧に来ていただければありがたいです。

【篠田】 ありがとうございました。それでは高遠町さん、お願いします。

【長野県高遠町助役・伊藤俊規】 長野県の高遠町からまいりました。先ほど吉野の町長さん、ヤマザクラ以外は桜ではないというお話をされましたが、私もそれほどではないのですけれども、高遠のコヒガンザクラは日本で一番かなと考えています。

コヒガンザクラと言いますけれども、高遠のコヒガンザクラというのは、またちょっとコヒガンザクラの種類と少し違うというお話があります。平成 2 年度に、高遠町で国際さくらシンポジウムというのを世界 9 ヵ国のみなさんをお呼びして開催しました。その折に、もうお亡くなりになりましたが、日本花の会の林弥栄先生が他のコヒガンザクラとは違うということで、その上に高遠という冠をつけていただきました。以来私どもでは、タカトオコヒガンザクラというふうに呼んでいます。

これは、高遠城の城跡に明治の初めころ、そこが公園になったころ、桜の馬場といって馬術の教練上にあった桜を移植してきた桜が中心です。シダレザクラも高遠の町にありますが、これはたいへんな古木で寿命の長い桜ですが、コヒガンザクラのほうはたいへん寿命が短い桜です。厭地現象にたいへん影響されやすいということで、50 年以上持たせるのはたいへんだというふうな話があります。これを何とか長持ちさせようということで、昭和 40 年ころには、公園に行くと桜並木に薦（こも）がよく巻いてありました。なぜ巻いたかというと、さくらの根が弱っていて、その値から養分が吸えないために、幹に土をはって、幹の途中から根を生やさせたのです。そんなことで寿命を長くさせてきました。そんな先人の苦労があって、今たいへん高遠の桜ということで、みなさん訪れていただくようになってきました。

城址公園に約 1500 本の桜がありますけれども、その中で 100 年を超える桜というのはなかなかないわけです。それでも 50 年以上になると 100 本以上あるかなということで、これをいかに育てていくかということが町の課題でもあります。そんなことで、先ほど来いろいろなところでさくら守の話がありましたが、町でもさくら守をお二人、町の職員ということで常時雇用しています。年間を通じて、テングス病対策で幹のせん定、病害虫の駆除、土壌に空気や水が入りやすくなるような施しをしながらこれを長く持たせようということでやっています。

それから、明治以来ずっと今まで先人が手がけてきた桜ですけれども、これを今の私たちも町民こぞって、何とか元気をさくらからもらおうということで、新しい公園づくり、そちらのほうにさくらの公園をつくりつつあります。そんなところです。

【篠田】 それでは、最後のサブテーマ「ネットワーク」、起承転結の「結」ですが、こちらの

ほうに移りたいと思います。

【茨城県日立市長・樫村千秋】　日立市です。日立市は明治 38 年に日立鉱山が創業しました。これがもとになり、日立市の今日の発展を見ているところです。しかし、鉱山は銅の精錬の操業による煙害が発生しました。環境問題が発生して約 90 年が経っているわけですが、この煙害を克服するために、さまざまな努力を先人たちがしてきたところです。その一つが、はげ山になった山、被害を受けたところの復元でした。このために用いられたのが大島桜です。当時 260 万本ほど植林したというふうに言われています。

それがもとになり、市内の企業、学校、公園などにたくさんの桜が植えられるようになりました。特に戦後ですが、ソメイヨシノを中心として、現在約 1 万 4000 本を超える桜が市内各地にあるということになっています。日立市の平和通りやかみね公園の桜、これが日立のまちのさくらの筆頭になっているところです。このようにして、日立市のさくらは、環境問題からさくらが位置づけられたところです。

しかし、その後ですが、このさくらを中心にして、自然環境問題をさまざまな角度からみなさん関わりました。市内の 23 ある小学校単位のコミュニティ活動組織、それから市民活動の中から生まれたさくらを愛するという観点から、さくらのまちづくりを進めるといことで、「日立市さくらまちづくり市民会議」というような組織も生まれました。また、市民が中心となってさくらのまちづくり提言書なども公表されたところです。市民会議の構成は、約 80 名程度の組織ですが、日立市を日本一のさくらのまちにしようという大きな目標を掲げ、平成 5 年には、花樹の会などのボランティア市民活動が定着してきたところです。

そういうこともあり、今度のサミットにおいても、市民を中心とする実行委員会方式を取らせていただいたところです。このようなことで申し上げると、市民と企業、あるいは行政とのネットワークを忘れることはできないと思っています。そういう意味で、まずは市の中でのネットワークができたものと思っていますし、これからも、それを増幅していく必要があると思っています。それとともに、本日このような形でサミットが開催され、いろいろなところから参加していただきました。そういったそれぞれのみなさんの自治体が抱えている問題、あるいは成功した例などをわれわれが取り上げ、ネットワーク化をすることがとても大切ではないかと思っていますし、サミットの意味もそういうものになるというふうに思っています。

先ほど、吉野町の町長さんから、「日立市民が元気であれば、日立のさくらも元気である、しょぼくれているとさくらも元気がなくなる」というお話がありました。われわれは、元気にこの桜を見守っていきたいのですが、ご覧になっていただければ分かりますように、平和通りの桜も随分助けを求めているようです。その助けに応えられるようにしなければなりません。テングス病、それからいろいなウイルス病があります。そういったものの駆除、あるいはウイルスフリーになるような技術を開発しなければならないと思っています。国などのさくらの研究機関への病害虫の防除、あるいは品種改良などの働きかけをしていく必要があると思っています。そういう意味からも、ネットワークを広げなければならないと思っています。

それからまた、ＩＴが随分進んできています。先ほど、事前の会議でも篠田先生のほうからお話がありましたが、今行政のほうでホームページを作られているし、地域活性化センターのほうでも、そのようなものを作っています。、本日参加したサミットのみなさんが、それぞれにサイトに参加して、いろいろな議論ができるようにおしゃべりをしてほしいという話がありましたが、ぜひそのような形でネットワークを広げていただきたいというふうに思っています。

いずれにしても、この日立市がさくらを元気に守ることによって、市の活性化も元気でありたいと思っています。

【篠田】　ありがとうございました。まず、北海道の静内町さん、よろしくお願いします。

【北海道静内町助役・川越孝吉】　静内町です。二十間道路桜並木で有名なところです。ここはほとんどがエゾヤマザクラです。相当老齢化していまして、新しい木を育てようということで、この樹勢のよい、花つきのよい木の茎頂を取り、バイオ技術によりそれを増やそうという計画をしました。しかしこれは、3 年ほどで失敗しました。そういうことで、新たな新しい種を拾って、芽を育てて、木を育てていかなければいけないと思っています。

そんな中で、10 年前ですけれども、日本さくらの会の要請をいただき、二十間道路のエゾヤマ

ザクラの種子を取って、それをアラスカのアンカレジに送りたいということで要請をいただきました。それを送らせていただきましたが、その後どのようになったかよく分からないのですが、ハウスの中で育てられ、順調にいっているというような話も聞いていました。

そしてまたさらに昨年、これも日本さくらの会からの要請ですけれども、エゾヤマザクラの種子を送ってほしい、その場所はアメリカのジョージア州のメイコン市です。ここでは 2005 年に、チェリーパークが壮大な計画で今事業を進めているそうです。その中にこのエゾヤマザクラの種子を 5 リットル、約 35,000 本が発芽する。その後最終的に育つのは、2,5000 本前後ではないかと言われています。それがこのメイコン市のチェリーパークの中に星条旗の形をかたどって植えたいということで、昨年送らせていただきました。そういうことで、その種子が順調に育って、さらに大きくなって開花をしていただきたいと思っています。それに負けないで、私どもも芽から気長に育てていきたいと思っています。

ネットワークということですけれども、先ほど基調講演の中でも下河辺先生からお話がありましたように、さくらを通じたさくらによる外交と言いますけれども、そこまで行っておりませんが、これが花が咲いて、さらにいろいろな面で交流が図られるようなことになれば非常にありがたいことだと思っています。

もう一つは国内ですが、日本さくらの会の土屋理事さんのお骨折りにより、いま埼玉県の熊谷市と静内町の地域間の交流をやりましょう、併せて北海道、埼玉県との交流をしましょうということで、実は来週の 11、12 日、埼玉県のほうで交流会が開催されることになっています。これもさくらによる縁で、そういう面でさくらを通じた新たなネットワーク作り、そして新しい交流が開けるのではないかと期待しています。今、そういうネットワークの部分での取り組みについての紹介をさせていただきました。

【篠田】 ありがとうございました。黒い森の中に、1 本さくらの木が咲いているという感じで、富岡町さん、よろしくお願いします。

【福島県富岡町さくらの委員会・川崎葉子】 お待たせいたしました。福島県の富岡町からまいりました。私どものところも、3 キロメートルぐらいにわたる桜並木があるのです。そして、みなさま方が今発表なさったような手入れもしています、植樹もしています、物産特産品の開発も考えています。でも今ここでそんなことをお話ししても、ほかと一緒です。ほかで絶対やっていない、私どものところだけでやっていることを一つご紹介したいと思います。

それは、みなさま方の中にも、もしかしたら出してくださった方がいらっしゃるかもしれません。「桜にまつわる想い出の手紙」。聞いたことのある方、いらっしゃいますか。「桜文大賞」というのをやっています。今日冊子をみなさま方のお手元に届いているかどうかと思うのですが、あの辺にスタッフがいますので、もしかしたら 1、2 冊はあるかもしれません。もしよろしかったらご覧になってください。

実は今年でというか、昨年締め切った分で 3 年目になります。みなさま方の心の中には、必ずさくらの想い出があるでしょう。その想い出を手紙の形にして届けてみませんかというコンセプトで私どもが始めた事業です。さくらというのは、みなさま方がお話しになったように、日本人の心の原風景の中に、必ず一つや二つ想い出となってあるのです。ですから、このさくらをキーワードに、そして今から何年前でしょうか『日本一短い母への手紙』という本がたいへんヒットしました。この手紙、電子メールの時代だからこそ手紙の良さ、文の大事さというものをもう一度考え直してみましょうということで、「さくら」というキーワードと「手紙」を結びつけて、『桜にまつわる想い出の手紙「桜文大賞」』というのが発足したわけです。

お陰さまで、1 年目が 3622 通、一昨年が 4698 通、そして来週の 4 月 15 日に授賞式が行われます 3 回目が 4054 通と、すでに計 1 万通を超える手紙が私どものところに届けられています。先ほどから何度もお話がありますように、このさくらというのは、戦争や散り際の潔さからでしょうか、人の死というものとの連想ということで、暗い手紙も多いことは事実です。しかし、回

を重ねるごとに、特に 21 世紀に向かって発信した昨年度の応募内容を見ると、21 世紀の夢と希望をさくらに託すという手紙がたくさん届けられています。

みなさま方よくご存じでしょう、「お江戸でござる」で有名な杉浦日向子さんが審査員のお 1 人なのですけれども、「これからは、さくらは希望と夢のシンボルであってほしい。そういったさくらのとらえ方をしてほしい」ということを、講評の中でおっしゃってくださったのです。ですから、私どもはこれからそういった考え方でさくらをとらえていただきたいと思います。この桜文大賞、まもなく 6 月から今年度分の応募が始まります。その前に昨年度の授賞式が 4 月 15 日、もし富岡町においでいただけるならば、審査委員長である小室等さんが来て、この桜文の朗読をしてくださいます。この朗読がとても素晴らしいのでＣＤ化して、みなさま方にお配りすることになりました。このＣＤの吹き込みに、私は先々週東京のほうのスタジオで立ち会ってまいりました。とても素敵なものができ上がりました。そして、この受賞作品、3 年間で 1 万通、その中から受賞作品の素晴らしいものをあと 2 年ほど続けて、5 年間ぐらいたちましたら、本にしたいという考え方もあります。

最後にネットワークに結び付けなければいけませんが、このあいだの発表式に、これほど大がかりではありませんが、県内の桜の名所の方に集まっていただいて、小さくさくらサミットというのをやりました。そのときに、県内のイベントのつもりだったのですが、どういうわけか、日立さんがどこからか聞いてくださって、こちらの実行委員長さんがおいでくださって、私がコーディネーターをさせていただいたのですけれども、さくらサミットにも参加していただきました。そんなこともやっています。そして、今度の授賞式には、受賞された方々、審査員の先生方に、さくらの親善大使となっていただいて、全国に富岡町のさくらを宣伝してくださいということもやっています。みなさまもお時間がありましたら、富岡町のほうにも足をお運びいただいて、そして桜文大賞第 4 回にぜひとも応募してくださることをここでお願いして、私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【篠田】　ありがとうございました。たいへん元気なさくらでした（笑）。それでは、最後に北区の区長さんから、よろしくお願いします。

【東京都北区長・北本正雄】　私ども北区は、平成 10 年第 10 回のさくらサミットを開催させていただきました。そのときに飛鳥山に記念植樹をしていただいています。場所としては、徳川吉宗が当時は今のようなたいへん不景気なときだったそうで、東京に 4 ヵ所の憩いの場を設けて、一般庶民に開放したという場所です。明治 6 年の太政官によって公園制度ができたときの公園の一つということで、たいへん由緒ある公園で記念植樹をいただいたということは、たいへん良かったと思っているわけです。

実は、今回もこちらへ参加するにあたり、飛鳥山へ行ってきました。お陰さまであのとき 17 の自治体の方に参加いただいていますが、その 17 の自治体の桜が、現状では大きなところは 2 メートル以上の大きさになっている。そして花を咲かせている桜もあります。また小さいところは私のひざ元ぐらいのところもあります。まちまちですが、いずれも元気に生育しています。

ただそこで困っているのが、大村市さんの木が折れてしまったということです。それもさっそくお届けをいただいて植え替えております。そして昨年は、鬼石町さんのほうの桜の枝がやはり折れているということで、新しいものを送っていただいたという経過があります。

今まで 13 回ものサミットを開いていて各地で記念植樹をさせていただいていますから、これが相当の数になっている。私どもは、記念植樹をいただいたものを、まさに里子に出された里親のつもりで一生懸命見まわりをさせていただいています。そうした気持ちがどちらの自治体にもあるのではないかと思います。そこで考えたことですが、できるならばこういったサミットの席で、報告の場を設けるようにされたらいかがかなと思います。そして現状の桜の写真なども添えていただければなおさらいいのではないかというふうに思って、提案のような形になりますが、そういったことも図っていただいたらいかがかなということです。

あともう一つが、この保存・管理の問題です。先ほど来、角館町さんのほうから黒坂さんのほうの保存管理先に対する報告をお寄せいただいています。あとでそのほうはよく勉強させていただきますが、私ども飛鳥山のほうは、現実には私どもの河川公園課で管理をさせていただいていますが、なかなか目が行き届かないところがあります。そういったところを他の自治体のみなさ

んはどういうふうにおやりになっているか。私どもとしてできるならば、ボランティア団体などにそういったことをお願いできればいいのかなと思っていますし、実際におやりになっているところもあるのではないかと思います。そんなこともこういった場でお聞かせいただけるようになったらありがたいということです。まさに、情報を共有化することによって、参加自治体、あるいは自治体そのもの、サミットが発展強化になるのではないかということを申し上げさせていただいて、私のほうからのお話にさせていただきます。ありがとうございました。

【篠田】　たいへん提案含みでのご発言をいただきまして、ありがとうございました。ここで、私は最後にサミット討議の総括をやるわけですけれども、その前に、新たにこのさくらサミットに加入したい団体についてご承認をいただくことが一つあります。

群馬県の宮城村という村がありますが、村長さんは、名前が桜井さんという方なのですけれども、お越しいただいております。ちょっとお立ちいただきますか。壇上のほうにどうぞお立ちください。ぜひとも加入をさせていただきたいという、たっての依頼ですが、みなさんよろしいでしょうか。（拍手）

【篠田】　ありがとうございました。そういうことで、晴れて加入いただけるということですので、がんばっていただければと思います。よろしくお願いします。

先ほど来いろいろな話を聞かせていただいて一番感じるのは、やはり桜の木とわれわれとが会話を交わすということが非常に重要なのではないか。そういう気持ちをわれわれがさくらのほうに寄せていくということが非常に重要なのかなと思いました。吉野の町長さんのお話で、たいへんショッキングな報告を聞いたというお話がありましたが、さくらの気持ちに耳を傾けることがだんだん欠けてきたということが、そういうこと（手入れ不足）になったのではないかと思います。下河辺さんも同趣旨のことを言われましたので、今一度さくらと語る、一番最初のテーマでしたけれども、そういう気持ちを持ちたいものだと思います。

それから、先ほどネットワークのところで、日立市の市長さんと北区の区長さんから提案がありました。こういう提案というのは本当に大歓迎で、ぜひともサミットを意義あるものにするためには、そういう提案をその場だけで留めないで、生かしていく必要があると思います。

先ほどの事前会議でも出た話しなのですが、本当にＩＴというのは、こういうために使っていかなければいけないと思います。せっかく常設連絡事務局として出版社のぎょうせいさんが、ただで汗をかいていただいています。ぎょうせいさんのホームページの中に、お互いの悩みを訴える場を作っていただいて、それを共通の財産としていくということをやっていったらたいへんいいと思います。行政だけがそのネットワークを使うのではなくて、今日お集まりの市民団体のみなさん、そういう方々も、行政のおしゃべりの場に一緒に仲間に入っていただいて、おしゃべりしていただければいいかなと思います。

特に、角館さんの保存・管理計画、私ども 1 冊ずついただいたわけですけれども、おそらく日本全国のさくらを愛する人たちは、そのノウハウを知りたいという気持ちをお持ちだと思うのです。そういうものを、これもまた角館のホームページでクリックするとそれが読めるというふうにしてサービスをしていただくとありがたい。このような感じがします。

サミットは 13 回目でした。21 世紀の一番最初のサミットを日立市でやらせていただいて、たいへんいいご提案をいただいて、幕を閉じることができるということで、たいへん喜んでいます。以上をもちまして、サミットとしての討議を終えたいと思います。ありがとうございました。

共同宣言

第 13 回さくらサミットは、21 世紀最初の記念すべき年に、全国 18 自治体が一堂に会して、ここ茨城県日立市で開催いたしました。

私たちは、これまでのサミットの中で、各地の「さくら」の素晴らしさを紹介し、共通のテーマについて意見を交換してまいりました。そして、古い時代から日本文化の象徴となってきた「さくら」を先人から受け継ぎ、次の世代へ継承しようとしいます。

一方、「さくら」にとっては、テングス病やナラタケ病、アメリカシロヒトリなどの病害虫の被害が広がりつつあります。さらに、古木の樹勢回復や若木による更新などが大きな課題となっております。

これらの課題に対応するため、次の三つの宣言をいたします。

一、私たちは、病害虫から「さくら」を守るため、病害虫に対する効果的な薬品等の開発や病害虫に強い品種の改良など、早急に実現されるよう関係機関・団体へ働きかけていきます。

一、私たちは、先人の努力によって受け継がれた「さくら」という大きな財産を、みんなで守り育て、末永く伝えていきます。

一、私たちは「さくら」で結ばれた自治体どうしが、さらに連携を深め、その輪を広げながら、さくらの素晴らしさを、大切さを、全国へ向け広く発信していきます。

平成 13 年 4 月 7 日

北海道静内町　宮城県柴田町　秋田県角館町
福島県富岡町　埼玉県北本市　埼玉県幸手市
東京都北区　新潟県上越市　新潟県加治川村
長野県高遠町　岐阜県根尾村　愛知県三好町
奈良県吉野町　島根県木次町　長崎県大村市
熊本県水上村　宮崎県北郷町　茨城県日立市

第 13 回さくらサミット IN ひたち開催地代表
茨城県日立市長　樫村　千秋

次期開催地

【茨城県日立市・樫村】　それでは、次期開催地を発表いたします。次期開催地は、岐阜県根尾村です。

【岐阜県根尾村・佐藤】　みなさん、こんにちは。岐阜県根尾村の助役の佐藤です。次期開催地の決定にあたり、一言ごあいさつ申し上げさせていただきます。来年度のサミット開催地として、根尾村が決定され、たいへん光栄に思っています。本来なら、村長自らがこの壇上に立ち、みなさまにお礼を申し上げなければならないところですが、一昨年の秋、ワシントン、ポトマック河畔の淡墨桜の植樹をした縁で、現在アメリカで開催されておりますワシントンさくらまつりのゲストに参加しており、当サミットに出席できなかったことをご了承いただきますようお願いします。

私どもの淡墨桜は、1500 年ほど前の時の継体天皇が根尾村から都へ戻る際、住民との別れを惜しみ、お手植えされたものと言われ、現在は国の天然記念物の指定を受けている、日本最古の巨木桜です。花の色が散り際に特異の淡い墨を引いたような色をしていることから、この名前がついたと言われています。また、1500 年の長き間には、数々の人々の手助けを受け、中でも枯死寸前のときには、前田医師によりヤマザクラの若根 238 本を根継ぐ大手術が施されたり、作家の宇野千代さんがペンを執り、淡墨桜の偉大さと重要性を多くの方面に訴えかけて、多くの方の力を借りて、不死鳥のごとくよみがえったものです。

今でも毎年春には多くの花をつけ、訪れる人に感動と魅力を与えています。来年度のサミットに、当村においでくださる方にもそのたくましい生命力を感じていただけたらと思います。サミットの開催時期については、今後検討させていただきますが、何分にも根尾村は、みなさまご存じの通り人口 2400 人ほどの山村で、さくらサミット加盟自治体の中でも小規模の自治体です。サミット開催にあたりましても、十分な施設や準備も難しいような団体ですが、ご参加のみなさま方のご協力をいただいて開催したいと考えています。今後ともご支援を切にお願いし、次期開催地の代表としての決意表明とさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

閉会あいさつ

【茨城県日立市・樫村】　閉会にあたりまして、一言御礼を申し上げます。サミット参加自治体の代表者のみなさま方をはじめ、コーディネーターの篠田先生、長い時間にわたりましてご熱心なご討議をいただき、今回のテーマであります「桜と語るさくらの未来」について、深く掘り下げることができたと思っています。本当にありがとうございました。お陰さまで、所期の目的が達成されたと思いますし、これを機会に、今後のさくらのまちづくりに向けて、大いに参考にしてまいりたいと考えています。

　また、来賓のみなさま方には、お忙しい中をご臨席賜り、さらに会場のみなさまには円滑な討議進行についてご協力いただきました。改めて御礼を申し上げます。なお、日立の平和通りの桜をはじめ、日立市内の桜は、今ちょうど見ごろであります。本日、会場にお集まりのみなさまにおかれましては、日立の桜、日立の夜桜をごゆっくりお楽しみいただきたいと存じます。また先ほどの討議の中では、日立市のさくらをさまざまな形でおほめいただきましたことに、感謝を申し上げたいと思います。本日は、誠にありがとうございました。

第 13 回さくらサミット IN ひたち関連イベント

イベント名称	期間	会場
第 40 回日立さくらまつり	4/1～22	平和通り・かみね公園
第 1 回日立さくらロードレース	4/8	日立新都市広場スタート
特別展示　日立風物流の世界	3/6～4/15	日立市郷土博物館
女流作家による The デザインさくら展	3/28～4/8	日立シビックセンター1 階ギャラリー
咲くらんアート「さくら」展	4/1～8	パティオモール
全国さくらまつりポスター展	4/1～22	常陽銀行日立支店
第 5 回さくらサミット大賞押花絵コンクール	4/5～8	日立シビックセンター1 階アトリウム
助川海防城　入城武者行列	4/7	銀座通り→平和通り（周回）
ひたちぎんざナイトバザール	4/7	ぎんざもーる・まいもーる
日立さくら名所めぐりバスツアー	4/7･8	日立市内さくらの名所
登録文化財「共楽館」資料展示会	4/7･8	共楽館
日本のさくら名所 100 選＋別選 50 vs 日立のさくら写真展	4/7～15	日立市教育プラザ 2 階ギャラリー
美容さくらまつり	4/8	日立市民会館
NHK のど自慢（生放送）	4/22	日立市民会館大ホール
記念オレンジカード発売	3/1～	JR 日立駅ほか　発行 2000 枚
さくらサミット開催記念出版 新田次郎著「ある町の高い煙突」	3/21～	日立市観光協会（観光課内） 限定 2000 部販売
「日立のさくら」絵はがき	発売中	日立さくらのまちづくり市民会議事務局（観光課内）
「日立のさくら」ガイドマップ	配布中	
日立さくらまつりフォトコンテスト作品募集	申込み 5/9 まで	日立さくらまつり実行委員会事務局（観光課内）

第 13 回さくらサミット in 日立

「桜と語るさくらの未来」～元気さくらとネットワーク～

報告書

発行日：平成 13 年 6 月 30 日
発　行：第 13 回さくらサミット IN ひたち実行委員会
日立市産業経済部観光課
〒317-8601
茨城県日立市助川町 1-1-1　0294-22-3111（代表）